CREATING OUR SHIZUOKA

静岡市
わかもの会議
SHIZUOKA YOUTH COUNCIL
実施報告書

目次

Ⅰ　静岡市わかもの会議の概要

１　静岡市わかもの会議について

２　参加者

３　協力団体

Ⅱ　静岡市わかもの会議の開催

１　会議の開催状況

２　会議の内容

Ⅲ　「若者が住んでみたい・住み続けたいまち」の実現に向けて

１　各チームからの提案内容

Ⅳ　平成 28 年度　静岡市わかもの会議を終えて

１　参加者からの感想

Ⅴ　資料

１　最終報告会　提案資料

２　最終報告会　来場者アンケート

Ⅰ　静岡市わかもの会議の概要

1　静岡市わかもの会議について

「静岡市わかもの会議」は静岡市内に在住、在学、または在勤の若者による会議です。「若者が住んでみたい、住み続けたいと思うまち」を実現するために行うべき政策を考え、静岡市に対して提案することを目的としています。提案された政策に対して、市は対応方針を回答し、すぐやれるものはすぐに取り組むこととしています。

2　参加者

15～24 歳の若者を対象に、公募により募集し、18 名の若者が参加しました

氏名	年齢	属性
秋山　友香	15	高校生
石川　琴音	16	高校生
石川　遥	23	大学生
岩辺　まりん	20	大学生
長内　皓大朗	18	大学生
神村　海里	21	大学生
齋藤　なるみ	20	大学生
齋藤　夢果	18	社会人
柴田　涼	24	社会人

氏名	年齢	属性
鈴木　貫司	24	大学生
鈴木　真人	23	社会人
高橋　宏維	19	大学生
田島　奈津実	16	高校生
中村　哲弘	20	大学生
長谷川　実紅	18	大学生
原崎　実紗	18	大学生
平野　佑実	22	大学生
松浦　凜	16	高校生

※敬称略／年齢は申込時点のもの／「大学生」には短大、大学院を含む

3　協力団体

会議運営及びコーディネート：ＮＰＯ法人わかもののまち静岡

Ⅱ　静岡市わかもの会議の開催

１　会議の開催状況

（１）静岡市わかもの会議

	実施日	内容など
第１回	平成 28 年７月 24 日(日)	アイスブレイク、会議の進行や趣旨の確認
第２回	平成 28 年８月９日(火)	テーマ検討・チーム編成
第３回	平成 28 年８月 20 日(土) ～8 月 21 日(日)	早稲田大学社会科学部 卯月盛夫教授による講義 グループワーク
第４回	平成 28 年８月 27 日(土)	合宿の振り返り・グループワーク
第５回	平成 28 年９月６日(火)	グループワーク
第６回	平成 28 年９月 21 日(水)	静岡県立大学国際関係学部 津富宏教授による講義、プレ発表
第７回	平成28年10月18日(火)	中間報告会
第８回	平成28年11月13日(日)	早稲田大学社会科学部 卯月盛夫教授による 政策提案へのアドバイス
第９回	平成 28 年 12 月４日(日)	最終報告会

（２）政策ブラッシュアップ会議

	実施日	内容など
第１回	平成 28 年 10 月 26 日(水)	政策提案のブラッシュアップ
第２回	平成 28 年 11 月２日(水)	政策提案のブラッシュアップ
第３回	平成 28 年 11 月 10 日(木)	政策提案のブラッシュアップ
第４回	平成 28 年 11 月 24 日(木)	政策提案のブラッシュアップ

（３）グループごとの活動

上記以外にも、参加者同士が自主的に会議外でも集まったり、専門家等へのヒアリングを実施。

２　会議の内容

（１）プレイベント

７月６日(水)午後７時～午後８時 30 分＠静岡市青葉会議棟

より多くの市民の皆さんに「静岡市わかもの会議」の発足を知っていただくため、パネルディスカッションを開催！

市内で活動する若者団体の方々をパネラーとして、18 歳選挙権の受け止め方や静岡市に住み続けたいか、「静岡市わかもの会議」に期待すること等について、それぞれの経験をふまえた議論が交わされました。

パネルディスカッション「若者のチカラでつくる、静岡のミライ」

「市内に若者が勉強するスペースや、団体が気軽にミーティングできる場所が少ない」「若者同士の繋がりがない」・・・といった、若者目線による意見のほか、「静岡に誇りをもって活躍している先輩や大人の存在が、若者の地域への愛着に繋がる」「大人の真似をするのではなく、若者の強みを活かしたい」「一部の若者の意見にならないようすべき」…等、「静岡市わかもの会議」のあり方についても重要な示唆がありました。

静岡市青少年育成課　松永課長より

「興味をもったことに対して、実際どうなのか、何がどれだけ足りないのかというところまで深堀りして、提案をアイデアにとどまらせないで」

来場者アンケート（抜粋）

Q. 本日のイベントで特に印象に残った部分は？

・自治体と若者がどのように関わっていくかを一部の人だけじゃなく色んな人で関わることは大切だと思いました。

・「大人のマネをするのではなく、学生にしかできないことをしよう」「自分たちの素直な気持ちを起点に考えていきたい」という点が印象に残った。

Q. あなたにとって、「若者が、住んでみたい･住み続けたいと思うまち」はどんなまちだと思いますか？

・若者と大人の壁がなく、お互いが信頼し合っているような社会

・若者を「若者」としてカテゴリーしないようになること

（2）第１回会議

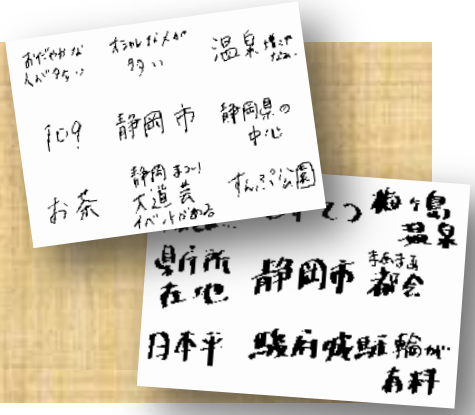
7 月 24 日(日)午後 1 時～午後 4 時 30 分＠静岡市青葉会議棟

高校生、大学生、社会人がバランスよく参加！記念すべき第１回目は 14 人が参加。自己紹介や話しやすい環境づくり、会議の趣旨を確認しあうワークショップを行いました。

セッション1　あなたの静岡市への思いは？

１人ずつ「静岡市」から連想されるものを８つ書いて、２～３人のグループでコメントし合いました。

オクシズや駿河湾等の「自然」、シラスや桜えび、静岡おでん等の「食」、家康公や久能山東照宮、宿場町等の「歴史」…バラエティに富んだ静岡市の特徴が表れました。



セッション2　静岡市わかもの会議はどうあるべきか？

会議を進める上での大切なことについて、グループごと意見を出し合いました。

会議の参加者が対等な立場で発言し、建設的な議論となるような「場・雰囲気作り」や、会議に参加できない人や、若者だけでなく様々な人の意見を聞けるよう「会議のプロセスの可視化」等、会議の「あり方」について皆で考えました。

第１回会議後の参加者の声（一部）

高校生としてなにができるか考えたい

より静岡市のことを知りたい

楽しみ、不安、、

課題や現状をおさえる

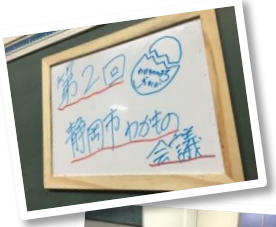
会議の進め方があいまい

なぜ、会議をするのかを明確に

勉強しながら進みたい

（3）第２回会議

8 月 9 日(火)午後6時～午後8時 15 分＠静岡市青葉会議棟



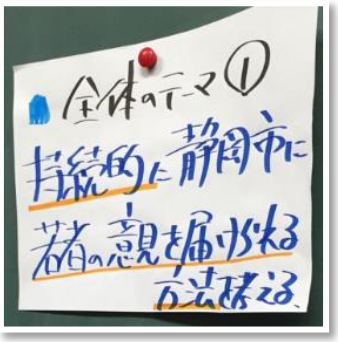
今回は 16 人が参加！初参加のメンバーも何人かいたので、改めて自己紹介！

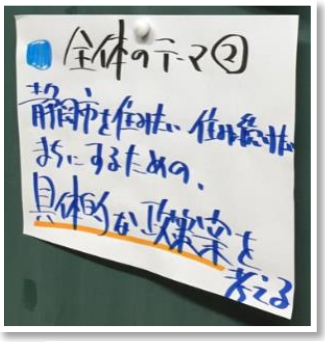
そして前回のおさらい！「幅広い意見を取り入れていくこと」と「話しやすい場づくり」を大切にしていくことを確認しました♪

これから、していくこと

これから、チームに分かれて政策づくりをしていきますが、参加者の興味・関心を出発点に、現状やニーズを踏まえて具体化していきます。

また、政策づくりが短期的なもので終わらないよう、若者の声をどう届けていくかも考えていきます。





あなたが考えてみたいテーマは？

後半は、政策づくりのためのチーム編成！

参加者それぞれ関心・興味のあるテーマを紹介し合いました。

「労働」「居場所」「福祉」「教育」「国際交流」「地域」等のテーマがあがり、それを選んだ思いや課題などの意見交換をしながらチーム編成が進んでいきました。

（4）第３回会議

8 月 20 日(土)～21 日(日)＠静岡市浜石野外センター

第３回目の「静岡市わかもの会議」は『ユースキャンプ』と称して、静岡市清水区由比にある「浜石野外センター」で１泊２日の合宿形式で開催しました！

1 日目

早稲田大学社会科学部　卯月 盛夫 教授をお招きし、国内外における、子ども・若者が主体的に社会に参画している事例の紹介・ご講演をいただきました。

「子ども・若者には大人を動かす力があること」
「子ども・若者はまちや社会を変える力があること」
そして「私たち大人は、子ども・若者が自分の意見を表明できる機会を確保しなければならない」という力強いメッセージをいただきました。

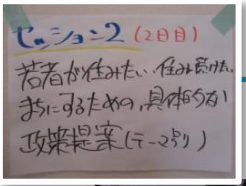
そして、卯月先生にコメントをいただきながら、まずは「若者の意見を静岡市に届け、影響力を高めるために必要なものは？」というテーマでワークショップを実施しました。

若者の意見を静岡市に届け、影響力を高めるために必要なものは？
◇◆◇ワークショップで出た意見（抜粋）◇◆◇

現状・課題	必要なモノは・・・？
・若者が集まれる場が少ない ・若者個々の活動が協働できていない	・若者団体が活動内容を情報共有したり交流するための場所（商店街の空き店舗を活用）
・中高生が社会と関わる機会がない ・ボランティアも労働力として使われてしまう	・若者が社会の構成員の一人として実感がもてるよう、本物のまちのなかで、若者だけで店舗を運営（ミニ・シズオカ）
・若者が知りたい情報を知りたい時に知れない。「やりたい」と思った特に頼れる（情報を持っている）人がいない	・若者が地域で活動したり、チャレンジする際に気軽に相談できるコーディネーターが必要
・イベントが若者に知られていない、内容が伝わっていない ・イベントへの参加手続が面倒	・SNS 活用で、リアルな声、様子を伝える ・投票やアンケートを行いやすいシステム（わかもの会議の発信や提言の評価等）

2日目

１日目で学んだことを踏まえ、「（静岡市を）若者が住んでみたい・住み続けたいまちにするための具体的な政策」を考えました。



１日目の夕食は
皆でカレー作り♪

「若者が住んでみたい･住み続けたいまちにするための、具体的な政策を考える」

【経済】をテーマに検討を始めたチーム：労働問題を語れる場づくり

若者が抱える様々な就職や労働に関する問題について気軽に話すことができ、必要であればそれを問題として認識し、解決へと導く橋渡しとなる場づくりをしたい！　しかし、既存の就労支援団体やイベントもたくさんあるため、現状把握し、他との違いや良さを見出すことが今後の大きな課題です。

【国際】をテーマに検討を始めたチーム：若者による国際観光ガイド

市内には魅力あるスポットがたくさんあるのに、若い人に知られていません。

学生が留学生と協力しながら海外旅行者を静岡市の観光地等に案内すれば、旅行者の利便性が向上し、案内する学生自身が市の良さ気づくこととなり、人口流出にも少しでも歯止めがかかるのではないでしょうか。

【教育】をテーマに検討を始めたチーム：ユースセンターの設立、若者専門職員の育成

中高生が、もっと多様な人達と出会える機会を設けることで、新しい自分を見つける機会や、社会に参画するきっかけとなります。そのための拠点となる施設（ユースセンター）の設置や地域や学校とのネットワークをもつ専門職員の配置が必要です。

【地域】をテーマに検討を始めたチーム：高齢者と若者を繋ぐ

地域福祉に関わる若者が減っている現状や、地域との繋がりが薄くなっていることを課題に挙げました。

ボランティアに興味がある人・興味はあるけど情報がない人、興味がない人といった対象ごとアプローチを変えて、手法を検討していきます！　しかし、既存の就労支援団体やイベントもたくさんあるため、現状把握し、他との違いや良さを見出すことが今後の大きな課題です。

（５）第４回会議

8 月 27 日(土) 午後 1 時～午後 4 時 30 分＠静岡市青葉会議棟

第４回会議は、キャンプの振り返りを行いつつ、「『わかもののまち』でないまち」ってどんなまちだろうというワークショップを実施。

「若者がいない」「娯楽がない」「『若者像』を押し付けられる」…等々これまでとは違った視点で様々な意見が出ました。

そうならないために、若者はどうする必要があるか、行政や社会にはどうあって欲しいか、議論は深まっていきます。

（６）第５回会議

9 月 6 日(火)＠午後6時～午後8時 15 分＠静岡市青葉会議棟

第５回目となる会議は、漠然としていたテーマが徐々に具体化しているようです。

アイデアが“独りよがり”にならないよう、「やりたいこと」「必要とされていること」と目的の再確認、そして、現状をきちんと把握しながら、議論を進めています。

また、今回は、市の担当部署の職員の方などにもグループに入っていただき、意見交換を行うこともできました！

チームごとの検討内容（第５回会議）

　雇用や労働問題という幅広いテーマで考えていますが、こうした問題に悩んでいる若者が集まれる場作りが必要と考えています。
　当日は、静岡市商業労政課の職員にお越しいただき、市の取組等について教えて頂きました。

　「国際観光」をテーマに話し合いをしています。特に、外国人観光客に対する通訳ガイドについて、若者が市内の留学生等とともに関われる機会が作れないかという案がでています。何かヒントになるものを探すため、市の外国人観光客受入施策を勉強しています！

「若者が気軽に集まれる『ユースセンター』の設置」や「高校生が社会の様々な人と知り合える機会を作りたい」など、多様な視点からのアイデアが出ています。今後、個人の興味関心を改めて具体化してみるとともに、専門家の方にもご意見を伺う予定です。

　「高齢者と若者を繋ぐ」だけではなく、「若者が、学校や家庭以外で他人と触れ合えるきっかけづくり」ができたらと考えているなか“住み開き”という言葉がキーワードとして出ています。また、静岡市保健福祉長寿局の職員にもアドバイスをいただきました！

（７）第６回会議

９月21日(水)＠午後6時～午後8時 15 分＠静岡市青葉会議棟

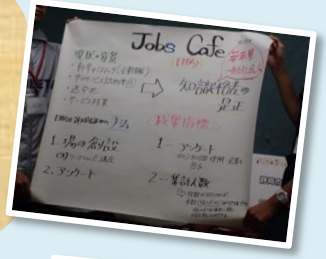
　第６回静岡市わかもの会議は、静岡県立大学国際関係学部 津富 宏 教授をお招きし、「若者参加の持続可能性」についてお話いただいた後、次回の中間報告に向けてのプレ発表を実施。

お互いのチームの発表を聞き、それに対して全員がコメントし、またチームごとの作業に入っていきます。

プレ発表を通じて「検討内容をさらに深堀りしていかなくてはならない」ということと同時に「人に伝えることの難しさ」も感じました。

チームごとの検討内容（第６回会議）

新卒採用のミスマッチや、行政サービスが十分に周知されていない等の課題を踏まえ、知識格差を改善できるような内容にしたいと考えています。机上で考えるのではなく、アンケートを行うなど、現状をしっかりと固めていきます！



外国人旅行客と静岡市のわかものが交流できる案を模索しています。
国別・宗教別に、わかもの目線の、web 上で見られる「静岡おすすめマップの作成」はどうかといったアイデアが出ています！

高校生にとって、「経験に基づく学び」や、「社会に興味を持つ機会」が少ないのではないかと考えます。地域と学校をつなぐ「機会」と「人（コーディネーター）」によって、学校や家庭以外の人と関わり、社会に興味をもてるようにならないか検討しています！

若者が家庭と学校以外の居場所を持て、地域への愛情を持てることを目的とする中、『人とのつながりを望む若者』をターゲットとし、「住み開こうとする人向けの講座」や「住み開きを支える仕組みづくり」等の具体的なアイデアが出ました！

（８）中間報告会（第７回会議）

10 月 18 日(火) 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分＠静岡市青葉会議棟

第７回静岡市わかもの会議は、一般市民の方を多数お招きしての「中間報告会」。各チーム、これまでの検討内容を来場者に向かってプレゼンテーションしました。

その後は、提案内容のポスターセッションを通じて、アドバイスやご指摘をいただいたり、意見交換をしたりと、活発な交流が行われましたが、様々な視点からのアドバイスに、まだまだブラッシュアップの必要性を感じました。

チームごとの検討内容と来場者からのコメント（中間報告会）

わかもの・留学生交流会

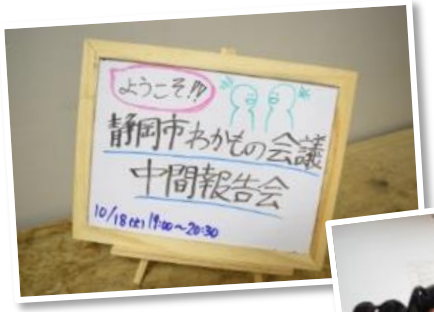
静岡に住むわかものが静岡市の魅力についてあまり知らないことと、国際交流する機会が少ないことを課題として設定しました。

若者と留学生が一緒に交流し、若者も留学生も静岡市の良さを知ることができるよう、大学生と在日留学生と高校生が定期的に交流する機会を大学生が主体となって作り、市内の様々な場所で交流することを提案します。

留学生にとっては、静岡市の魅力を知ることができ、若者にとっては今まで気がつかなかった魅力について、留学生の目線を通じて知ることができ、地域の自慢・愛着に繋がります

来場者からのコメント

- 大学の留学生支援サークル交流会議でも「高校生との交流を望む」との話があった
- まちの再発見と愛着向上という目的は共感出来る
- 実施主体は？静大でも国際交流サークルなどあるが、それでは不十分？
- 留学生がターゲット？わかものがターゲット？目的が曖昧
- 愛着という目に見えないものをどのように測る？



地域にとびだせ！高校生！若者コーディネーター

各種統計によると、「地域は好きで、貢献をしたいが、どうすればいいのか“わからない”または“知らない”」という若者の現状がありますが、原因の一つとして、学校では「経験・体験に基づいた学び」の機会が少ないことが挙げられます。

学校の授業は学校内で完結してしまうことが多く、地域との関わりも先生の異動等で継続しない場合もあることから、地域や生徒に近い「コーディネーター」の存在が必要です。

そこで、高校において地域と繋がる「コーディネーター」の設置と高校の「総合的学習の時間」の活用により、コーディネーターと学校が連携して、高校生が地域の問題解決のためプロジェクトを、学校・地域住民で審査の上で高校生が主体となって実施し、実施後は地域住民を交えた報告会を行うというプログラムを提案します。

来場者からのコメント

・コーディネーターが具体的にどんな役割なのか、どんな立場になるのかが重要。また、どのように養成するのか？
・『課題解決』から入ろうとしなくても、魅力発見やこうしたらもっと楽しくなるよ、というようなビジョン先行でも良いと思う
・「地域」とは？学校の周りなのか。自分の住んでいる地域なのか？

Jobs Cafe～高校生と社会人をつなげるＷＡ！～

高卒就職者の離職と原因に着目し、就職先とのミスマッチが無い状態にするにはどうした良いかと考えました。実際に高卒で社会人の方 30 人にヒアリングしたところ、「勉強や部活動との両立で多くの企業を調べられない」「先輩とのつながりが薄い」「会社の人（先輩）の話が聞きたい」等、高校生にとって「頼れる人とのつながりが少ない」状況がありそうです。そのため、「社会人と学生との座談会」や「高校生インターン」が必要ではないでしょうか。

来場者からのコメント

・色々な企業の話を聞けるので高校生側にとってはメリットが大きい
・離職そのものが本当に悪いことか？データで追ってみて
・カフェに参加する会社側のメリットは？
・どのくらいの会社や企業が参加するかの目安があると良い
・具体的なデータを増やして
・学校、行政、若者、企業の役割分担

地域センパイ制度

　進路や友人関係、勉強のことなど、家庭や学校では言えない相談事や悩みを持っている中高生は多く、自分の住んでるまちに相談できる「センパイ」が存在すれば、暮らしやすいまちになるのではないでしょうか。

　また中高生は出会う大人が限られていることから、地域で様々な人に出会うことによって地域に愛着を持ち、将来選択の幅が広がという効果も考えられます。

　「自宅」や「公共施設」の一部をコミュニティスペースとして開放したり、「相談したい人」と「相談を受けられる人」をマッチングする仕組みを作る提案をしたいと思っています。

来場者からのコメント

- ”センパイ”のサポートがあるのは高校生側としてはとてもありがたい
- 世代間交流の発想は良い
- 住み開きの事例をもっと具体的に示す必要がある
- いかに敷居を低くするのかを考えるべき（申し込むのは難しい）
- ”センパイ”の人にとってのメリットは？

（９）第８回会議

11 月 13 日(土) 午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分＠静岡市役所静岡庁舎

　第８回静岡市わかもの会議は、早稲田大学 卯月盛夫教授を再びお招きし、最終報告会に向けて、発表内容の確認を行いました。

　また、平行して、定例の会議とは別に「ブラッシュアップ会議」を開催しています。様々なゲストからアドバイスをいただき、また、チームごとの個別の打合せも活発になってきました。最終報告会に向けてラストスパート！！

発表内容へのアドバイス（概要）

★キャッチーなタイトルを考えよう
★全国的なニーズではなく、静岡市という地域としてのニーズの把握し、「生の声」を伝えよう
★当事者意識をもとう（何でも「やってくれ」でなく「自分たちはどうするか」）

（10）最終報告会（第９回会議）

12 月 4 日(日) 午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分＠静岡市役所静岡庁舎

静岡市わかもの会議　最終報告を行いました！

静岡市長や市幹部、来場者の市民の皆さんを前に、チームごと発表。それぞれの提案に対してコメントをいただきました。

また、後半は来場者の方々と意見交換を行い、実現可能性や具体化に向けてのアドバイスを頂きました。

～若者が住んでみたい・住み続けたいと思うまち～

提案：静岡市を「日本一働きやすく、住みやすいまち」に。

休みが取れない、残業代が支払われない…労働問題は若者にとって、身近で深刻。こうした労働問題を相談できる窓口と、労働問題について若者同士で気軽に話ができる交流会を開催すること、そしてそれらを実施する団体の創設を提案。気軽に相談、参加できる機会をきっかけとし、弁護士や専門機関と連携して問題解決につなげていきたい。

提案：静岡限定！～日本一コスモポリタンを目指す～

「異文化交流したい」「留学生と交流したい」という若者が多い一方で、市内には、若者が興味を惹かれる国際交流の機会が少ない現状がある。そこで、私たちが自ら国際交流の機会をつくり、静岡市でしかできないことを企画していくことと、ホームページやＳＮＳを作成し、動画や体験談など参加したくなるコンテンツを充実させるなど国際交流のＰＲ方法の改善を提案。

提案：ぼくらがつくる ちいくのじかん。

社会で生きていくには「問題解決能力」や「コミュニケーション能力」が必要と大人たちよく言われる一方で、学校（高校）ではこれらを学ぶ機会がない。だからこそ、学校の授業として、正解のない問題に友人や地域の人たちと一緒に取り組む地域学習の時間「ちいくのじかん」が必要。「ちいくのじかん」によって、シチズンシップに富んだ若い市民が育つ。

提案：静岡市 地域センパイ制度。

自分の実体験から、進路のことや学校のことを、親や先生、学校の友人以外で、気軽に相談できる先輩が地域にいることはすばらしいことだと考える。独自にとったアンケートでも、年上の人と話すことは有益と考える若者は多い。悩みを抱えた若者が、地域の先輩と交流できる「ＯＢＯＧ会」を提案。若者が地域に入っていくきっかけにもなる。

～提案に対する会場からのご意見～

・雇用の問題は社会全体の大きな問題であることから、
最も緊急性が高い。
・市に頼って…ではなく、自分たちで回りに声をかけ、
説得していく形、がむしゃらな感じが必要。がんばって。
・「若者」や「地域」は便利だが抽象的な言葉なので、具体的に考えると分かりやすい。
・高校の同窓会がまさにＯＢＯＧといえるのでは。「第２の自治会」とならないように。
・「ちいくのじかん」について学校に入り込むことはハードルが高く難しい、教育委員会のバックアップがあるとより具体化するのではないか？
・聞いていて、それぞれの提案が重なっているところもあるのではないか
・・・まだまだたくさんのご意見をいただきました。

～最終報告会を受けて静岡市長からのコメント～

・若者の特権は、現状に異議申し立てができること。大人が一定の水準で満足していても、さらに良い静岡市を目指し、社会的関心をもって議論を続けたことはエールを送りたい。
・市民の税金を使って、この場を作っていることから、本音で感想を申し上げるのが誠意であり、そうした視点でコメントするのであれば、本日の提案では、まだ現場の声が足りず、未熟に聞こえてしまった。
・安易に「市にやってもらおう」「市の補助金にたよろう」という時代ではない。結局、自分が動かなければ変わらない。
・プレゼンのなかで「提案は未熟でも、思いは本物」という言葉がでたが、本気ならば、責任を持って、そのことを今後 10 年間に渡って追求できますか？ということを問いかけたい。本気でなければ、この場は学校の授業と変わらないものになってしまう。本日の報告会は、中間報告と受け止めた。今後 10 年間、問い続けて欲しい。
・人生を充実させるための秘訣は、多くの人と出会うことである。特に 20 代での出会いは非常に重要。そういう意味では、わかもの会議で集まったメンバーの出会いは素晴らしいものである。この出会いを大事にして切磋琢磨し、自分を磨き上げ、さらに今もっている社会的な関心を掘り下げて、社会を変える原動力になってもらいたい。

Ⅲ　「若者が住んでみたい・住み続けたいまち」の実現に向けて

１　各チームからの提案内容と、それに対する市の対応方針（回答）

提案内容：静岡市を「日本一働きやすく住み続けたいまち」に

　私たちのグループでは、静岡市を「日本一働きやすく住み続けたいまち」をテーマにし、労働問題についてのチャンネルを増やすための労働相談窓口の設置を提案しました。

　ここに至るまでの過程としては、まず自分たちの周りにいる社会人の方々にアンケートを取ることにし、労働問題における現状を生の声から感じた。アンケートの中には、時間外労働の賃金が支払われていないことや、契約書には有休ありの記載があったにもかかわらず、ないことにされそうになったなどと労働問題というのは非常にたくさんあることがわかった。アンケートをとっていくうちに、私たちにはこんな思いが出てきました。「労働問題に苦しんでいる人を１人でも多く救いたい」と。そして、このアンケートをとってわかった、労働問題は、もっと多くの人が抱えているのではないかという考えに至りました。一人ひとり抱えている問題は異なり、１人ごとの対応が必要と考えた。そこで、政策で解決するよりも、１人ごと対応できる相談窓口があったら良いのではという考えに至りました。そして、相談窓口で多く集まる労働問題においては、数が多くなれば政策提言も可能だと考えます。

　また、交流会という勉強会や労働に関するテーマについて話す場として活用するものも必要だと考え提案した。これは、労働問題を相談窓口や公共機関に解決してもらうのではなく、自分たちから声をあげて解決していくためのチャンネルとして活用します。

　相談窓口と交流会が繋がる仕組みを作ることで、相談窓口で扱った事例をもとに交流会で話し、また似た労働問題が出てきたときの解決策を話すことができます。ここが、既存の、県や市の労働相談窓口にはない仕組みであり、このような仕組みが必要だと考えます。

市の対応方針（回答）：実現不可能

　貴重なご提案ありがとうございます。

　若者が抱える悩みや不安を解消する目的として、コミュニティの形成は重要な事柄であると考えていますが、本提案における「団体の創設」及び「交流会の開催」の目的は「労働問題における諸問題の解決」であると理解し、お答えします。

　労働における諸問題の解決に向けては、企業の倒産や合理化による出向・配転・解雇、職場内のいじめやセクハラなど多岐に渡る問題があることから、知識・経験を有する専門家への相談を行うことが最も望ましい手段であると考えています。

　商業労政課では、毎月３回市内各所において、社会保険労務士による「労働相談事業」を行っています。勤労者が参加しやすいよう、夜の時間帯に設定していますので、労働問題でお悩み等を抱える若者がいましたら、「労働相談」ご利用の勧奨をお願いいたします。

　なお、対面による個別相談が基本となりますが、労働問題の相談は深刻な内容であることが多く、情報セキュリティの観点から、ＳＮＳやメールによる相談受付は行っておりません。

提案内容：静岡限定！～日本一コスモポリタンを目指す～
独自にアンケート調査を実施したところ、「国際交流をしたい若者」は 93%いるのに対し、①イベントがあることを知らない（39%） ②機会がない（32%）③時間がない（15%）④自分に合ったイベントがない（7%）ために、希望する国際交流ができていないという結果となりました。「異文化交流したい」「留学生と交流したい」という若者が多い一方で、市内には、若者が興味を惹かれる国際交流の機会が少なかったり、そういった情報が知られていないという現状があります。 若者が主体となって、市内の若者と留学生を対象に、国際交流の機会を作ります。市内でしかできないことを企画することで、若者が地域に愛着を持つ機会になります。 市は運営の面でそれをサポート（開催場所の設営、金銭面での援助、広報、企業への見学や体験の依頼等）するとともに、若者を対象とした国際交流のイベントをまとめて知れるホームページ、ＳＮＳの作成や、それらに動画や体験談など参加したくなるコンテンツを充実させるなど、ＰＲ方法の改善を行います。 静岡の若者のしたいこと“国際交流”ができるようになることで住みやすい街、住み続けたい街に、また静岡限定の体験ができることで、若者の静岡市に対する新たな“魅力発見”と“愛着”につながります。
市の対応方針（回答）：一部実現可能
「若者が主体となった国際交流へのサポート」について 子どもや若者の国際交流を目的とした取り組みを行っている団体は市内に数多くありますが、公益的な目的のものについては市も積極的に協力しておりますので（例：静岡市子ども会連合会との連携による留学生等とのもちつき体験や、ボーイスカウト・ガールスカウトとの連携によるホームステイ受入促進や海外青少年団体との交流事業、静岡大学と連携したホームビジット受入等）、具体的な企画提案に対しては、できる限り協力します。 「ＰＲ方法の改善」について 特に若い世代へのイベント等の周知に関しては「口コミ」が非常に有効な手段だと考えますが、ＳＮＳに置き換えると「シェア」や「リツイート」等による情報拡散をいかに増やしてしていくかということが重要です。そのため、新たにホームページやＳＮＳを開設するのではなく、既に多数のフォロワーを擁している静岡市の公式ＳＮＳ（Facebook や Twitter）等を活用していきますので、情報拡散のご協力をお願いします。

提案内容：ぼくらがつくる ちいくのじかん。
私たちのグループでは『ちいくのじかん』という地域学習の時間を高等学校の授業の一環として盛り込むことを市長に提言しました。 当事者である高校生が感じている”学校や家庭など限られたコミュニティの中で生活や一方的に先生の話を聞くだけの授業で、これから一市民として生きていけるのだろうか” という将来の不安から、高校生は社会に出るために投資されている時間がないという問題意識を持ち、私たち若者には市民になるための時間が必要であり、高校生が地域の市民として踏み出すための一歩目を授業の中で創りたいと考えました。 授業の一環として行うことで、静岡市のすべての若者が主体的に課題解決に向けて動き出すことのできるシティズンシップに富んだ市民に成長することで、静岡市全体が誰もが住みやすいまちになっていくことにも寄与できると考えました。 また学校ではなく地域という学習のフィールドを使うことで、様々な問題に触れることや様々な方とのコミュニケーションを通して、多様な価値観を知ること、地域における課題に対して正解はないことを学ぶことができ、高校生が地域で育っていくことを大切にしたいと考えています。 この提言を実現していくために私たちは「ちいくのじかん導入検討会議」を実施し、カリュキュラムの策定や運営方法などから、当事者である高校生の意見を反映させていきたいと考えており、そのための検討会議の主催及び関係者の招集を静岡市にお願いしました。 この『ちいくのじかん』を実現することで、静岡市を若い市民が日本一躍動するまちにすることができると私たちは確信しています。そして、そんな静岡市を一緒に創りたいと考えています。
市の対応方針（回答）：検討が必要
「アクティブラーニング型授業」の導入により「問題解決能力」や「コミュニケーション能力」を身につけるための授業が増えていますが、正解のない問題に友人や地域の人たちと一緒に取り組む地域学習の時間「ちいくのじかん」の必要性はあると思います。 市内においては、静岡市立高校では「科学教育プログラム」という切り口で、主体的に課題の解決に取り組む人材を育成するための授業を実施しており、また、清水桜が丘高校でも、社会課題の解決策の提案を行う学習の実施を検討しているところです。 こうした学習内容は、学校ごとにそれぞれの目標やカリキュラムに沿って設定しておりますので、ご提案のような会議の開催によって学習内容を検討していくのではなく、具体的な学習内容のご提案に対して、学校ごと個別・具体的に検討することになります。

提案内容：静岡市 地域センパイ制度。
自分たちの実体験から、進路のことや学校のことを、親や先生、学校の友人以外で、気軽に相談できる先輩が地域にいることはすばらしいことだと考えます。年上の人と話すことで新たな価値観や考えが身につき、多様な視点から自己の将来を見つめる機会ともなります。また、中高生が地域との繋がりを持ち、様々なセンパイと触れることにより、地域・地域の人への愛着が生まれ、これは地域コミュニティの再生の契機にもなります。 市内で実施したアンケートの結果によると86.7%の人が年上の人と話す経験は意味のあるものであると回答しています（有効回答数 83／うち 10～20 代は 50） 若者がリクエストしたテーマで、そのテーマに沿って老若男女が集まり、自由に会話を楽しむ「しずおかＯＢ・ＯＧ会」を市が開催します。 若者にとっては悩み等についての話し相手ができ、若者が地域に入っていくきっかけにもなります。
市の対応方針（回答）：検討が必要
若者がもつ悩みの相談や、疑問、興味のあることについて、先生や家族、友人だけではなく、地域に住む先輩に気軽に話ができることは、若者にとって地域や社会を身近に感じる機会にもなり、若者の社会参画や地域への愛着を育むといった視点としても非常に重要なことと認識しています。 ご提案の「しずおかＯＢ・ＯＧ会」については、ご提案の分析や企画を更に一歩踏み込み、どれだけの市民ニーズが見込まれるのかという分析と、具体的にどう実施するのかという企画の詳細をつめていただく必要があると考えます。 例えば、 ・どのようなテーマで、誰を「ＯＢ・ＯＧ」として招き、開催するのか ・どの地域で行い、運営は誰が担うのか ・参加者はどのような年代で、何人程度の参加が見込まれるのか 等、更に具体的な提案をいただきたいと思います。

Ⅳ　平成 28 年度　静岡市わかもの会議を終えて

1　参加者の感想

私がわかもの会議に半年間関わっての感想はわからないことばかりだったなあということです。今とてもモヤモヤが残っています。まだまだ勉強不足であまり理解できずに最後の報告会を迎えてしまったことが悔しいです。また、報告会に来てくださった方々に響いた、という実感があまり持てませんでした。

すごくネガティヴな文章になってしまいましたが、このわかもの会議を通しての出会いはとても大きいです。一緒に活動したメンバーからまた違う場に誘ってもらったり、自分にはない物の捉え方を見せてもらったり、とても刺激的でした。会議を通じてできた繋がりは今後も切りたくないな、と思います。雇用について深く考えるきっかけや、周りの友達の職場環境などに関心を持つきっかけになり支えたり改善させることに協力できたら、と思っています。

市長が言われたように 10 年続ける、というところまでの覚悟はありませんがこの繋がりからまた行動したい気持ちはあります。会議を通して得たものは大きいです。本当にありがとうございます。（齋藤　夢果）

私は YEC（若者エンパワメント委員会）という若者の社会参画の活性化を目指す静岡県立大学の学生団体に所属しています。このわかもの会議という貴重な機会で私はこのサークルに関して参考にしたり、また自分の提案が社会に影響をあたえることができるというのに興味を持ち参加しました。

私は国際関係に興味があり、国際交流の機会をより多くすることを目指しました。しかし、いざ政策を考えてみると、目的が見えなくなったり、欠点が多かったりと、なかなかうまくまとまりませんでした。市を変えるというのは想像よりも難しいと思いました。

でも、グループで試行錯誤し、最終的な提案が上がったとき、達成感がすごくありました。市長に提言したこの政策が少しでも影響されるようにこれからも考えていきたいと思います。（長谷川　実紅）

政策作りがいかに大変なものであるか実感しました。知識も何もない私でしたが一緒に政策作りに取り組んだメンバー、わかしずの方々、市の方々、その他アドバイスを頂いた方々のおかげで何とか形となり、市長に提言させて頂くことができました。私たちの考えた政策が今後どのようになっていくのか楽しみです。

また、今回わかもの会議に参加したことにより自身の興味関心を広げることができました。私自身まだまだ未熟なので勉学に励むとともに、今後ほかの活動へも参加していきたいと思っています。このようなきっかけを与えてくれたわかもの会議に感謝しています。（原崎　実紗）

今回のわかもの会議に参加しての感想としてまず、静岡市の多くの若者に出会える機会となって良かったです。きちんと政治のことを考えるきっかけとなりました。

個人的な感想としては、会議に関してもっと良い物が作れたと考えています。「若者」という存在自体を問うような班や、勉強会や、時間がなかったことは非常に反省すべき点だと感じました。まず、若者という言葉に対して、私たち自身がどう考えているのか、若者ではない人たちは、どう考えているのか、そうしたことから話していくことも大切だと感じました。

また、僕たちが公的な場で、多くの一般の市民のみなさまに、自分たちの考えていることを発表する機会があったことは、非常に貴重だったと考えました。それは、時間をかけて政策を考えることや、勉強会に参加することで、責任を負う経験を得ることができたからです。私の班のメンバーも、発表をするということになっていたから、自分たちの言葉や政策を必死に考えたし、その経験は非常に大切だったと感じています。

今回の会議を通して、もっと自分たちの環境を自分たちでよくしていくために、わかもの会議のような仕組みがずっと静岡市に存在していればいいなと感じれたので、これからも何らかの形でこうした取り組みをしていきたいと感じています。（柴田　涼）

私は数少ない高校生として、わかもの会議に参加しました。大学生や市役所の方々と知り合いになれたり、提言に対する準備の大変さを知ったりと、たくさんの収穫を得た半年間でした。

しかし、１つだけずっと悩んでいたことがあります。それは、「高校生の役目とはなにか」ということです。会議の中で、出てくる意見の質やパソコン作業はやはり大学生の方がはるかに上で、常に自分の中での達成感を味わえずにいました。

そのような中で、今回の反省として「高校生の数をもっと増やしたらどうか」という意見が出ました。正直、高校生だけのチームがまともな提言ができるとは思えません。そのため、もし増やすとするなら大学生のサポートを２人にしたり、もはや提言という形ではない、高校生なりのやり方をやったりしても良いのではないかと思います。

そういったことを思いつつ、来年度のわかもの会議ではもっと活躍できるようにしたいと思います。（松浦　凛）

私はこの会議に面白そうという理由だけで参加しました。実際に参加してみて、大学生が多く、この会議に役立つ多くの知識を持っており、とても勉強になりました。この会議を通じてたくさんのことを知り、たくさんのことが経験できました。

また、多くの人と出会うことが出来、活動の幅も広がりました。今回の経験を今後の生活に役立てていけたらと思います。（秋山　友香）

私は昨年山形から地元静岡にＵターンしました。静岡を離れたからこそ地元の良さや物足りなさに気づくことができ、また地元の事を何にも知らないということを実感しました。静岡で何かしたい、静岡をもっと好きになりたいという思いからこのわかもの会議に参加しました。

私たちのグループは教育について政策立案を行い、高校生たちと一緒に考える機会がありました。ちいくのじかん。学校で地域やキャリア教育を学べる機会がたくさん増えて、静岡が好きな若者が増えていったらいいなと思います。（石川　遥）

わかもの会議での提言は自分たちがすべての若者の代表として意見を集約はできたとは言い難いですが、高校生が中心となり「自分たちの学校を良くしていきたい」という思いを「ちいくの時間」の提言という形にできたと思います。このような若者も市民として意見を社会に対して発信できる機会はとても重要だと思います。

自分たちが住んでいるまちを自分たちの手で良くしていくというのが市民であり、若者も市民として参画し影響力を持っていくために、今後も続いていかなければと思います。（鈴木　貫司）

静岡わかもの会議を通して、同世代の人達と自分達の困り事を共有し、どうしたら解決出来るかをともに考えることが出来ました。自分達を含めたわかものが労働問題についてどう向き合っていくかを考える大事な機会にもなりました。解決策を考えて、提言する過程までは始まりだと思います。わかものを当事者を据えた上で、行政と民間がわかものの実行をサポートする環境が今後の静岡市に必要だと思います。

わかものの連携を市がサポートする過程はとても重要だと思いました。加えて、僕達の提言の準備から実行までをともに並走していける関係が望ましいと思いました。このわかもの会議の１番良かったことは、若者の声を社会、行政に発信出来たことだと思います。（高橋　宏維）

第一回静岡市わかもの会議に参加できたことを本当に嬉しく思っています。高校生という立場で参加できたからこそ得るものが多かったと思っています。

最初は軽い気持ちで「教育」というテーマで進んでいましたが、多くの関係者の方々に沢山の助言をしていただき、深く考えることができて本当に良かったと思っています。土肥さんをはじめとする、NPO 法人わかもののまち静岡のスタッフの方々に本当に感謝しているとともに、今回多くの役割を回してしまったことはこの会議の改善点ではないかと思っています。

もし来年もわかもの会議があるようであれば参加したく思いますが、受験生という立場でどこまで参加できるかわかりません。しかし、受験生だからといってこういう活動を控えるということはしたくないので参加できる限りしたいとは思っています。

静岡市わかもの会議で沢山の人に出会えてネットワークを広げられたことにとても嬉しく思っています。（田島　奈津実）

Ⅴ　資料

１　最終報告会　提案資料

（１）静岡市を「日本一働きやすく住み続けたいまち」に。　・・・p.27～p.31

（２）静岡限定！～日本一コスモポリタンを目指す～　・・・p.32～p.39

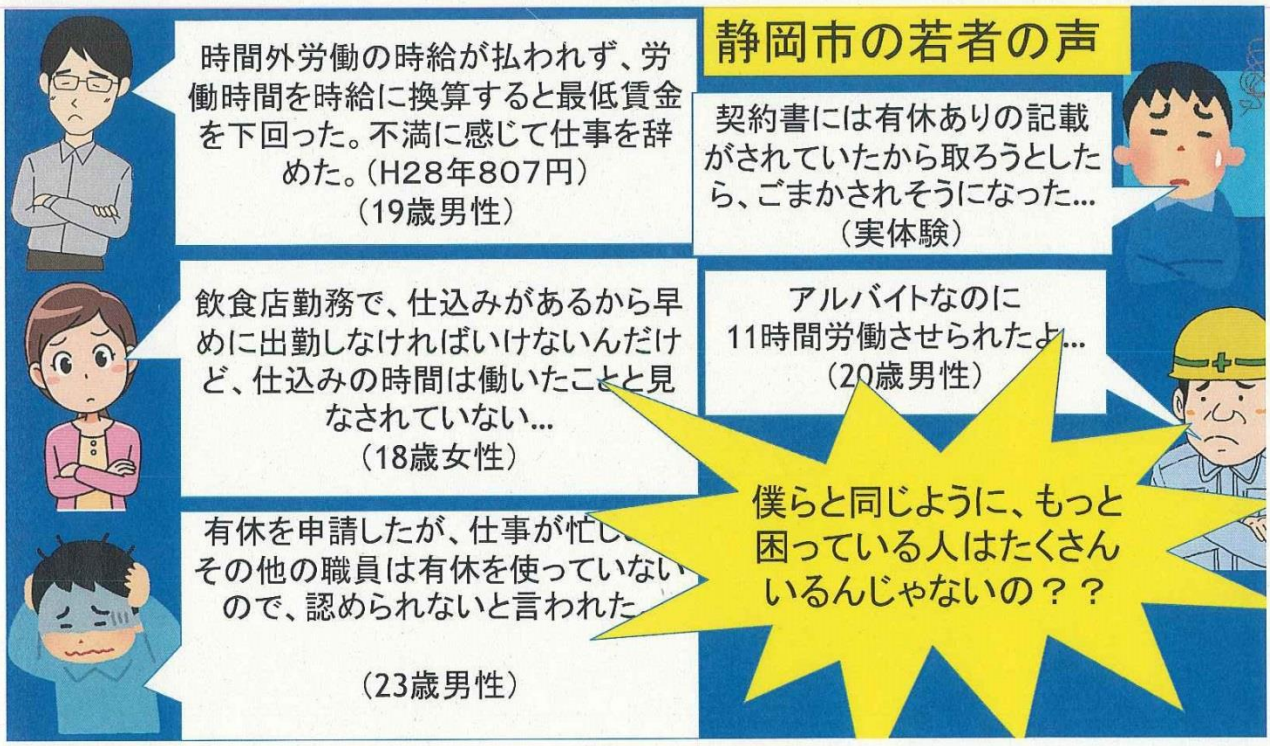
（３）ぼくらがつくる ちいくのじかん。　・・・p.40～p.51

（４）静岡市 地域センパイ制度。　・・・p.52～p.58

静岡市を「日本一働きやすく住み続けたいまち」に。

私たちの思い

労働問題に苦しんでいる人を、1人でも多く救いたい



提案

1人でも多くの人を救うための相談窓口と交流会を運営する団体の設立

市の役割

・助成金

（交流会の会場費・交流会による勉強会の講師謝金）

・後援的立ち位置

（市の後援なしの団体がいきなり相談窓口を始めても信用性に欠ける）

最後に

みなさん、静岡市を

「日本一働きやすく住み続けたいまち」

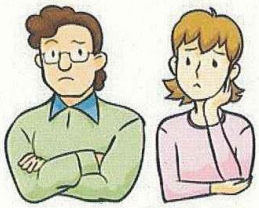
にしましょう！

企画名称	静岡市を「日本一働きやすく住み続けたいまち」に。
現状・背景	労働問題に苦しみながら働いている人は沢山いる
なぜ、必要なのか？	静岡市の若者が労働問題で困っている人が沢山いる
市民ニーズはあるか？	ある。若者は大人よりも若者の方が労働相談の悩みも打ち明けやすい。
目的	静岡市を「日本一働きやすく住み続けたいまち」にするため
ターゲットは？	相談窓口・交流会ともに全年齢
ターゲットはどんな欲求を持っているか？	労働についての悩みや相談をまず聞いてほしい
手法	①相談窓口②交流会
競合は？市の役割は？	市の役割：①助成金（交流会の会場費・交流会による勉強会の講師謝金）②後援的立ち位置
どの程度実施するか？	労働相談窓口はSNS等を使うため、可能な限り対応。交流会は月１回実施
経費は？	30千円
成果指標	相談窓口対応件数、交流会実施回数、交流会参加者数、
どのようにして計るか？	アンケート、実施回数は集計
目標は？	相談窓口対応件数：１０件　交流会実施回数：月１回（年１２回）

静岡限定！
～日本一コスモポリタンを目指す～

現状

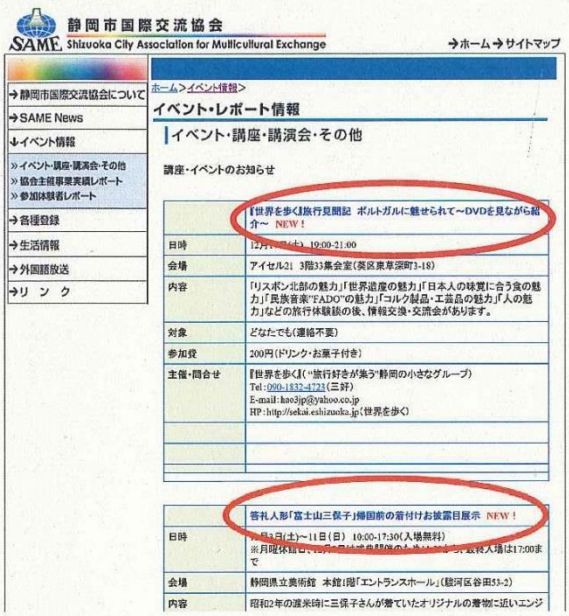
- 静岡の国際交流派はわかものにとって魅力に感じない。
- 知る機会がない。
- 静岡市国際交流会のサイトを見て…



「ホームページがかたくるしい。」

「対象にしている人がわかものではない。」

静岡市国際交流会SAME　http://www.samenet.jp/event/index.html



静岡市国際交流協会
SAME Shizuoka City Association for Multicultural Exchange
→ホーム→サイトマップ

- →静岡市国際交流協会について
- →SAME News
- ↓イベント情報
  - » イベント・講座・講演会・その他
  - » 協会主催事業実績レポート
  - » 参加体験者レポート
- →各種登録
- →生活情報
- →外国語放送
- →リ ン ク

ホーム＞イベント情報＞

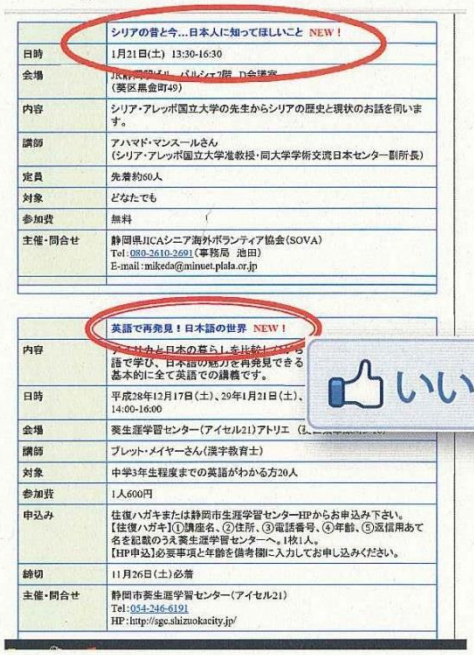
イベント・レポート情報

イベント・講座・講演会・その他

講座・イベントのお知らせ

	『世界を歩く』旅行見聞記　ポルトガルに魅せられて～DVDを見ながら紹介～　NEW！
日時	12月[illegible](土) 19:00-21:00
会場	アイセル21　3階33集会室(葵区東草深町3-18)
内容	「リスボン北部の魅力」「世界遺産の魅力」「日本人の味覚に合う食の魅力」「民族音楽"FADO"の魅力」「コルク製品・工芸品の魅力」「人の魅力」などの旅行体験談の後、情報交換・交流会があります。
対象	どなたでも(連絡不要)
参加費	200円(ドリンク・お菓子付き)
主催・問合せ	『世界を歩く』(～"旅行好きが集う"静岡の小さなグループ) Tel：090-1832-4723(三好) E-mail：hao3jp@yahoo.co.jp HP：http://sekai.eshizuoka.jp(世界を歩く)

	答礼人形「富士山三保子」帰国前の着付けお披露目展示　NEW！
日時	[illegible]日(土)～11日(日)　10:00-17:30(入場無料) ※月曜休館日、[illegible] で
会場	静岡県立美術館　本館1階「エントランスホール」(駿河区谷田53-2)
内容	昭和2年の渡米時に三保子さんが着ていたオリジナルの着物に近いエンジ



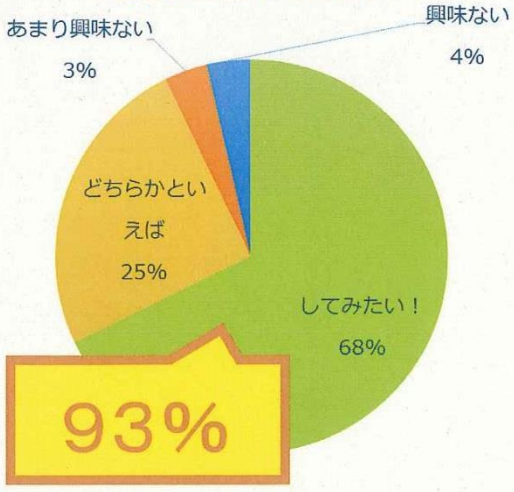
	シリアの昔と今…日本人に知ってほしいこと　NEW！
日時	1月21日(土)　13:30-16:30
会場	JICA[illegible]ルー　パルシェ7階　D会議室 (葵区黒金町49)
内容	シリア・アレッポ国立大学の先生からシリアの歴史と現状のお話を伺います。
講師	アハマド・マンスールさん (シリア・アレッポ国立大学准教授・同大学学術交流日本センター副所長)
定員	先着約60人
対象	どなたでも
参加費	無料
主催・問合せ	静岡県JICAシニア海外ボランティア協会(SOVA) Tel：080-2610-2691(事務局　池田) E-mail：mikeda@minnet.plala.or.jp

	英語で再発見！日本語の世界　NEW！
内容	[illegible]力と日本の暮らし を比較しながら 語で学び、日本語の魅力を再発見できる 基本的に全て英語での講義です。
日時	平成28年12月17日(土)、29年1月21日(土)、[illegible] 14:00-16:00
会場	葵生涯学習センター(アイセル21)アトリエ　([illegible]
講師	ブレット・メイヤーさん(洗足教育士)
対象	中学3年生程度までの英語がわかる方20人
参加費	1人600円
申込み	往復ハガキまたは静岡市生涯学習センターHPからお申込み下さい。 【往復ハガキ】①講座名、②住所、③電話番号、④年齢、⑤返信用あて名を記載のうえ葵生涯学習センターへ。1枚1人。 【HP申込】必要事項と年齢を備考欄に入力してお申し込みください。
締切	11月26日(土)必着
主催・問合せ	静岡市葵生涯学習センター(アイセル21) Tel：054-246-6191 HP：http://sgo.shizuokacity.jp/

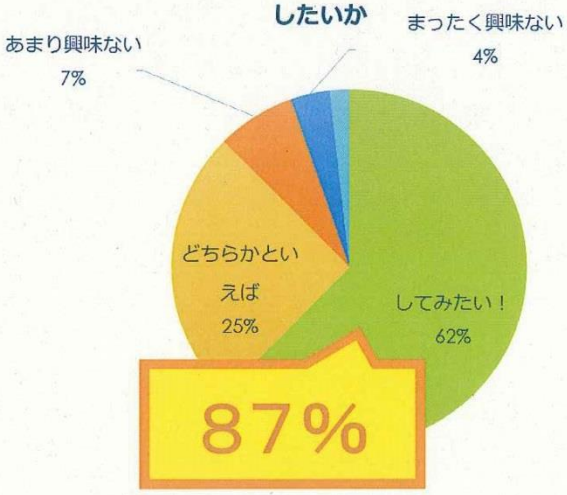
いいね！

現状　わかもの56人へのアンケート

異文化交流してみたいか？

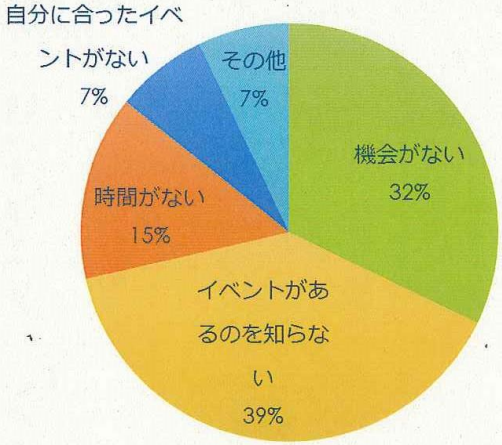


県内の大学生と高校生、留学生で交流できたら参加したいか



現状　わかもの56人へのアンケート

異文化交流に参加できない理由



もし交流する「場」があったら
どんなことをしたいか？

- 相手の国の文化を知りたい
- テーマ決め、話をしたい
- ゲームをして仲良くなりたい
- 一緒に料理を作りたい（相手の国の食文化
- スポーツをしてみたい
- 観光をしたい
- 英会話をしたい　　など

現状　県立大学の留学生16人へのアンケート

（出身国：　中国、台湾、インドネシア、ベトナム）

Q.静岡・日本でやりたいことは？

A.
- 知識、技術を身に着けたい
- 日中の交流に貢献したい
- 観光したい
- 日本語の勉強をしたい

Q. 静岡・日本で困ったこと、必要なことは？

A.
- 日本語がわからない
- 交流が難しい
- 静岡でもっと活躍したいが、機会がない
- アルバイト

私たちの想い

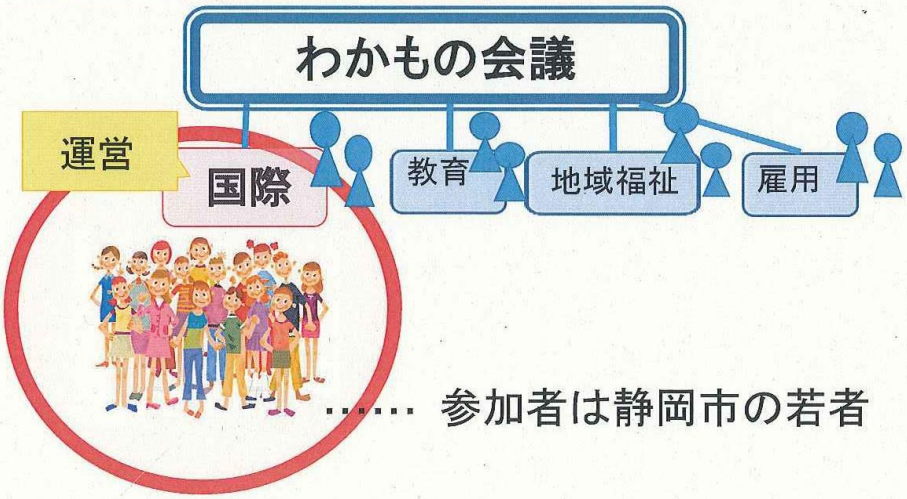
・若者向けの国際交流がない。

・・・もっと留学生と話したい。英語で話してみたい。
治安が悪い国には行きたくない。（ストックトン）

・PRが下手。

・・・検索しないと出てこない。もっと宣伝してほしい。
HP上のイベントの分類わけができていない。
文字ばかり。具体的な説明が少ない。

国際交流の生まれる場をつくる



・・・・・・ 参加者は静岡市の若者

For example…

- ホームステイ
- 一緒に住んでみる（ルームシェア）
- 短期的なホームステイの募集
- どこかに行く
- 匠宿に行く
- 静岡の伝統工芸を体験する
- 玉露の里に行く
- 登呂遺跡に行く
- 夢の吊り橋に行く
- お悩み相談会
- 留学生に関する相談、体験談を聞ける場
- 日本人の悩みを一緒に考える
- 留学生が日本人に質問をする場
- 地域の人と交流
- オクシズのお年寄りと交流
- お茶体験
- お茶摘み体験
- お茶会
- 静岡の食
- 静岡名物食い倒れツアー
- グループ活動
- グループを作って一緒に行動
- 多国籍の料理、お菓子をつくる、食べる
- 50カ国のご飯屋台
- 伝統料理のレクチャー、試食会
- お互いの国について教え合う
- 留学生の母国について話してもらう
- 国の歴史や言い伝えなどをシェア
- 色々な国の歴史を学べる
- 一緒にお勉強
- 宿題などを教えあう場
- わかもの会議
- 多国籍わかもの会議
- 多国籍幼稚園
- 季節ごとのイベントを利用してゲームやご飯
- 日本、外国の季節毎のイベントを一緒に体験
- 既存のイベント
- 宝探しイベント
- 一緒にすでにあるイベントに参加してみる
- ファッションショー
- 単発的なイベントとして色々な国々の服を着て撮影
- ファッッションを教えて服を着る
- マナー
- オリンピックに向けてマナー講座
- パリピ
- まちコンみたいなお店とコラボ
- 合宿
- 泊まりでどこか行く
- お仕事体験
- 大学生たちと留学生で仕事体験をする（インターンシップ）
- グローバル人材育成セミナー
- 職業体験
- 趣味
- 共通の趣味のコミュニティを作って好きなことをする
- カメラが好きな人たちで写真を撮りに行く
- 日本人と留学生が好きなことを一緒にする（スポーツや音楽）
- スポーツ
- スポーツ、チーム対抗でそれぞれに留学生も入る
- 静岡の田舎へ行こう
- 静岡の田舎に帰ろう～サバイバル編～
- サマーキャンプ
- オクシズでバーベキュー
- ゲーム
- いろんな国の言葉で簡単なゲームをする
- 留学生の国のゲームをその国の言葉でする
- 様々なカードゲーム
- 英会話カフェ
- ファッションショー
- 単発的なイベントとして色々な国々の服を着て撮影
- クイズをする
- 料理
- 一緒にクッキング
- 静岡の郷土料理を一緒につくる
- 外国人的パリピ
- ダンスをする、日本人と外国人のやるダンスは種類が違うから面白そう
- 楽しく英会話できる
- 英会話カフェ
- 外国のゲームをする
- 英会話
- 英語を教えてもらったり、日本語を教える言語交換
- 日本語教室を開く、若者が先生
- 留学生に母国語を教えてもらえる教室
- 脱ジャパニーズ・イングリッシュ講座
- 親子英会話
- とにかく話をする
- カフェで自由に出入りできる

例えばこんな企画！

☺わかものの静岡市の魅力再発見に繋がる！→愛着

✓静岡で一緒に体験する

例）匠宿、久能山東照宮、三保の松原、お茶会、静岡おでん、オクシズ

✓国同士の交流をする

例）多国籍料理作り、季節のイベントの共有
言語の教え合い、スポーツのイベント

☺料理やスポーツなど、言語の壁の低いものも！

For example…

- 公式LINE
- ラジオや新聞やポスターを使って広報
- 市の国際交流のためのSNS解説を、学校、広報、新聞などで宣伝
- 記事、学校にプリント
- 公民館、電車などにチラシをはる
- わかもの会議国際版のHPをつくる
- わかもの会議国際版のメンバーを載せる
- 学校に訪問して実際にイベントについて紹介する
- 実際にあるイベントでチラシを配る
- 市役所、施設、お店にチラシを貼ってもらう
- 交流イベントの様子を動画で載せる（YouTube）
- PRする際に、若者の顔や声を入れる
- 若者が頑張ってるよ！というのをpick up！
- 人気がある場所にはる
- 多くの情報を分かりやくす明確な数を、どのような利益があるのかを明確にする
- 若者が、若者を誘う形で宣伝
- 意識高い？って思わせたくない
- ツイッターのリツイートで広める
- インスタでタグ付け
- 〇ごとワイドでPR
- 有名な人（久保ちゃん）にPRしてもらう
- イベントに複数参加するとプレゼントか何か特典がある
- #おみやげ#お菓子#ジュース#恋バナ#食（肉）
- インスタの枠があればいい
- 楽しいよ！っていうものを体や言葉で表現する
- かかるコストを負担してくれいている
- 簡単に申し込みができる
- 分類分けをする（無料や有料なイベント、スケジュール、イベント参加者が見れるフォトページ
- 何をしてどんなことを知れるか具体的に説明する
- 体験談を載せる

PR方法は

#静岡市 #国際交流 #おみやげ #おかし #ジュース
#恋バナ #英会話カフェ #気軽にどうぞ

- ✓ 既存のHPを改善
- ✓ 新たにHPを開設

6.7万 リツイート 6.4万 いいね

- ✓ それらHPをPRするためのSNSを開設
- ✓ 作成したHP／SNSのPR方法の工夫

いいね！

結果…

■ 静岡の**わかもののしたいこと“国際交流”**が
できるようになることで**住みやすい街、住み続けたい街**に。

■ **静岡限定の体験**ができることで、わかものの
静岡市に対する新たな**“魅力発見”**と**“愛着”**につながる。

ご清聴ありがとうございました

企画名称	静岡限定の体験　～日本一のコスモポリタンを目指して～

現状・背景	●静岡市の国際交流は若者にとって面白くない ●国際交流の場があっても知る機会がない
なぜ、必要なのか？	・国際交流がしたい反面、できる場がない ・世界に輝く静岡の実現
市民ニーズはあるか？	●国際交流をしたいわかもの（93%）　●異文化交流に参加できない理由は・・・ ①イベントがあることを知らない（39%）　②機会がない（32%）③時間がない（15%）　④自分に合ったイベントがない（7%）

目的	●国際交流、異文化交流の希望はあるが、機会のないわかもの、留学生に対して、場を創出することで、希望を叶える
ターゲットは？	・わかもの ・留学生
ターゲットはどんな欲求を持っているか？	・わかものも留学生も国際交流、異文化交流したいが、機会がない、知らない等

手法	国際交流を生まれる場として国際交流できる場所作り、ホームページ作成及び改善、SNSの活用、イベントの開催
競合は？市の役割は？	・開催する場所の設営、金銭面での援助、広報、企業への依頼（見学、体験）
どの程度実施するか？	・イベントを年間10回
経費は？	・50万

成果指標	●毎年同じアンケートを実施し、パーセンテージの増加によって定住者が増える
どのようにして計るか？	・わかものと留学生を対象に年に数回、アンケートを実施し、静岡の魅力について認識することができたかどうかを調べる
目標は？	・静岡がわかもの、留学生にとって住みやすい、住み続けたい街になること

ぼくらがつくる

ちいくのじかん。

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

わたしたちの学校生活

限られたコミュニティの中での生活

一方的に先生の話を聞くだけの授業

学校での勉強は
社会に出てから使えるの？

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

私たちは
なんのために勉強しているんだろう

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

このままいくと…

選挙に関心がない若者

政治に関心がない若者

自分の意見を伝えられない若者

壁に直面したときに乗り越えることができない若者

就職に関心がない若者

意欲がない若者

与えられたことしかできない若者

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

このままいくと…

社会で生きていくために必要な能力

行動力

想像力

コミュニケーション能力

問題解決能力

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

このままいくと…

私たちには入試の先の人生に対する
投資された時間がない

私たちに
市民として学ぶ時間をください

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

私たちの提案

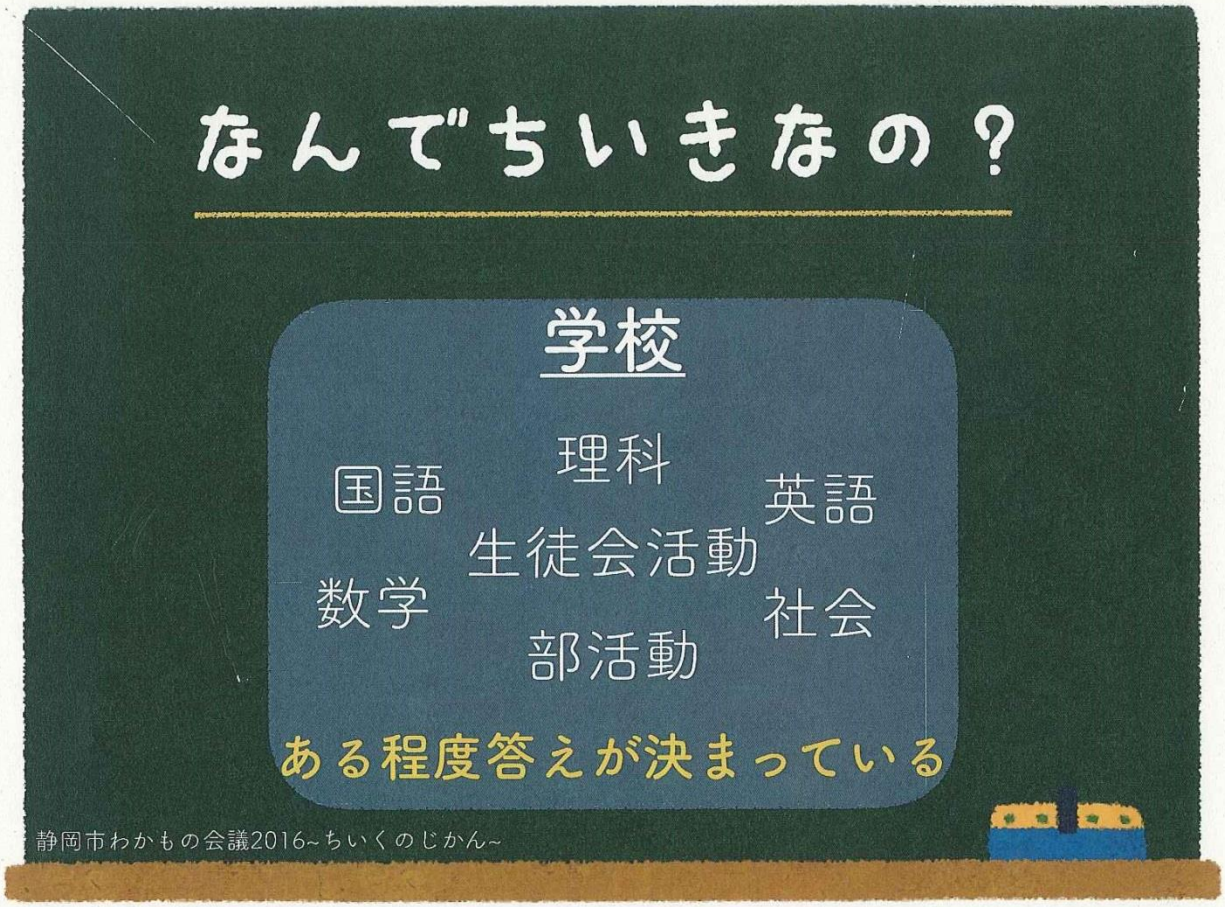
『ちいくのじかん』という
地域学習の時間を設ける

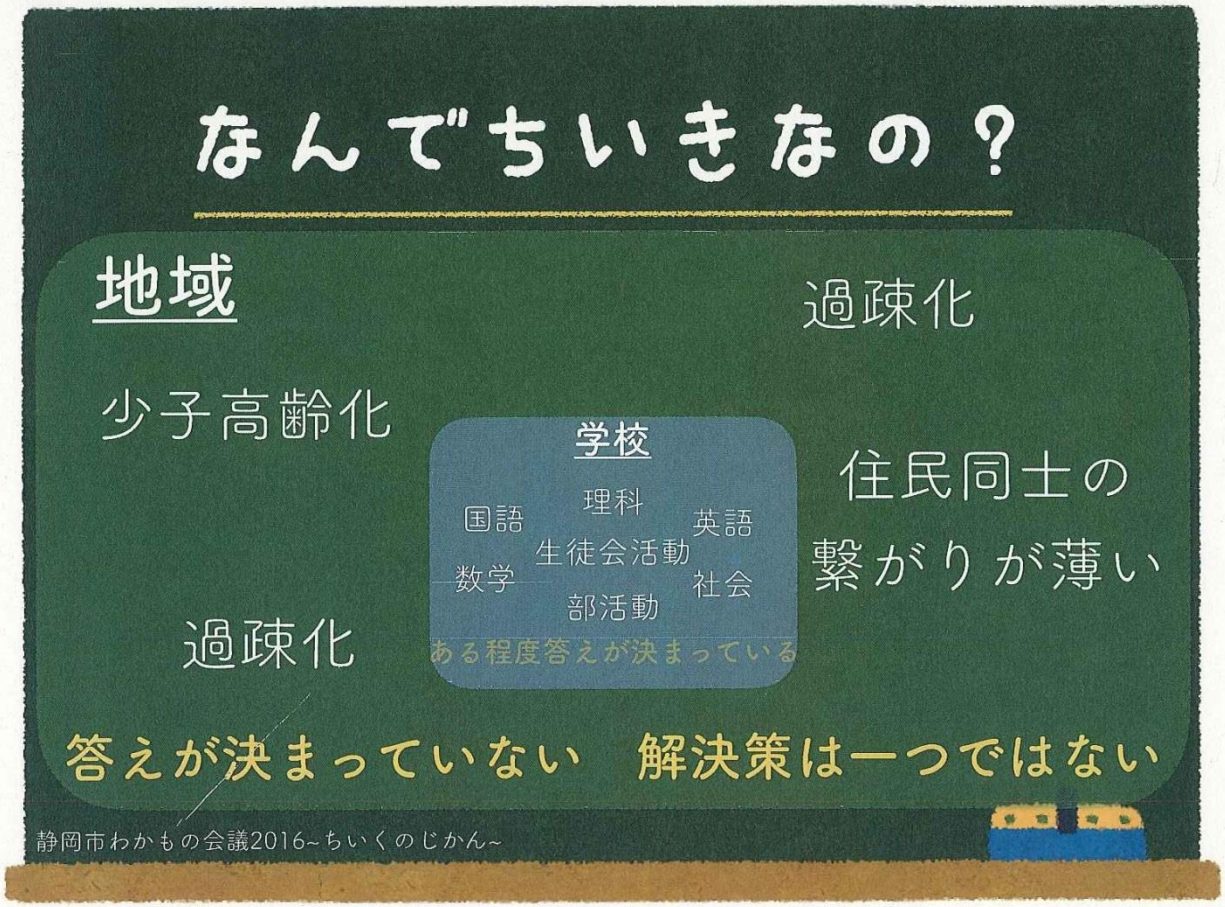
静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

ちいくって？

・地域に行く
・地域で知る
・地域で育つ

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~


なんでちいきなの？
学校
理科
国語
英語
生徒会活動
数学
社会
部活動
ある程度答えが決まっている
静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~


なんでちいきなの？
地域
過疎化
少子高齢化
学校
理科
国語
英語
生徒会活動
数学
社会
部活動
ある程度答えが決まっている
住民同士の
繋がりが薄い
過疎化
答えが決まっていない　解決策は一つではない
静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

なんでちいきなの？

このような地域の問題に
仲間や地域の方と一緒に挑戦することで

- 人との出会いが生まれ、新たな価値観を得る
- 地域の問題に対して他人事から自分事に変わる
- 問題解決能力、行動力、創造力、
  コミュニケーション能力などの能力の向上

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

なんで学校なの？

これからを担っていく市民として
これらの能力はすべての若者が身につける必要がある

授業として行うことで
静岡市のすべての若者が
シティズンシップに富んだ市民になる！

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

今こそ

『ちいくのじかん』が必要である！

私たちの学校を
私たちが変えていきます。

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

そのために…

静岡市の役割

ちいくのじかん導入検討会議の主催

関係者の招待

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

実施にむけて

4月　夏　秋　冬　2018年4月　9月

検討会議の委員の任命

→

検討会議の実施
（全５回以上）

①ちいくの時間の検討
②ちいくの時間の目標の設定
③カリキュラムの作成
④学校の指定
⑤学校運営の基本方針
⑥学校運営、教育活動

→

指定校での実施

→

検討会議
・カリキュラムの見直し
・改善

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

実施にむけて

検討会議

運営主体　静岡市わかもの会議メンバー

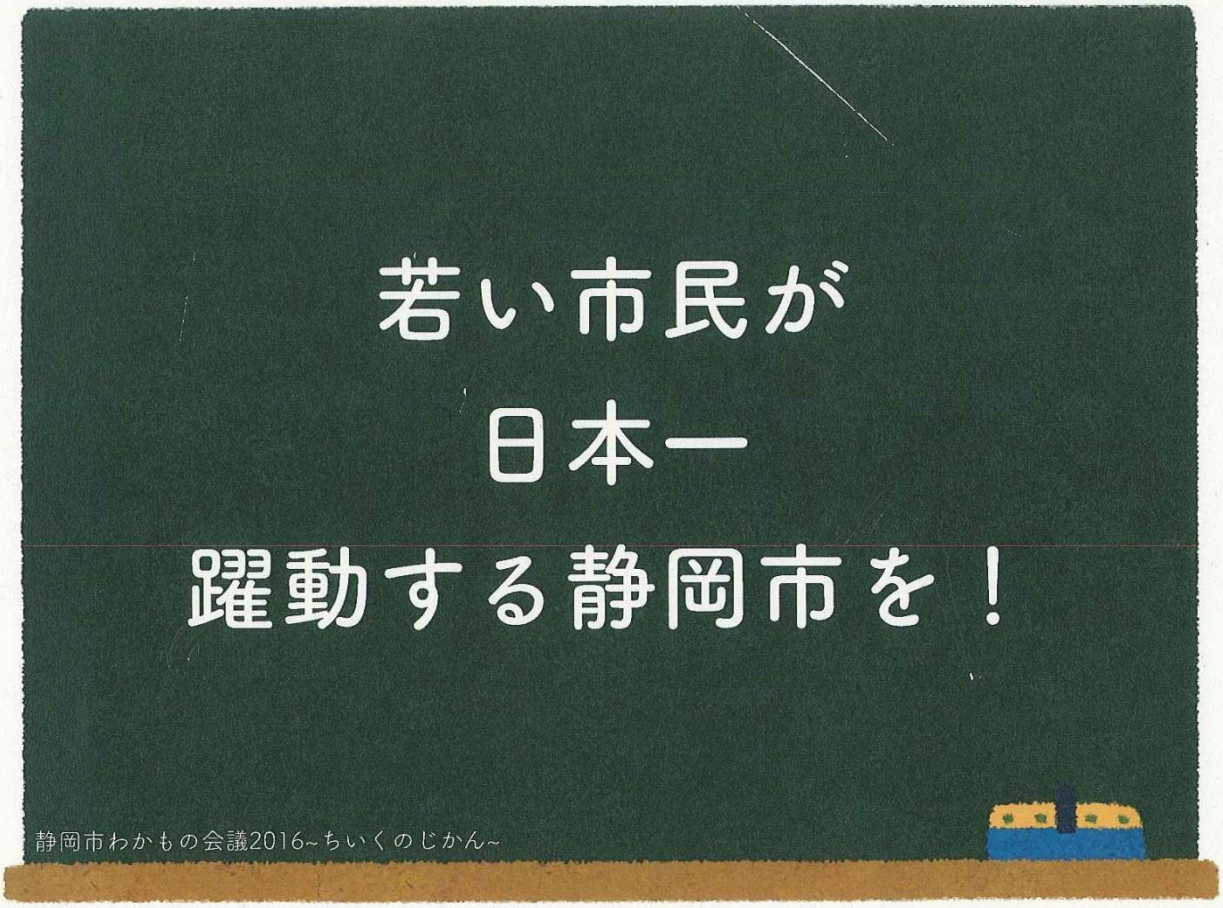
学校
校長
教員
PTA
高校生

地域
自治会長
町内会役員
大学生
NPO
子育て世代

専門家
大学教授
研究機関

静岡市校長会
社会福祉協議会
静岡市
静岡市教育委員会

静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~


若い市民が
日本一
躍動する静岡市を！
静岡市わかもの会議2016~ちいくのじかん~

企画名称	僕らがつくる「ちいくのじかん 」

現状・背景		学校授業だけでは社会に出て必要とされる能力を身に付けられない。将来社会に出ていることを不安に感じている。若者は自分の地域は好きだが、地域や社会問題に関して他人事である。また地域を良くしたいという気持ちはあっても社会に参画する手段が限られていたり、手法を知らない。
	なぜ、必要なのか？	・生徒が社会にでて向き合うのは正解のない問題がほとんどで、学校の教科科目だけでは「正解のない問題」に対応することができない。地域は高校生にとって最も身近な現実社会であり、その地域には様々な正解のない問題が存在する。 ・若者が社会問題への関心が持てず他人事になることで、若者の投票率が低下することで、シルバーデモクラシーが加速し「若者が住みたい、住み続けたいと思えるようなまち」にならない。「私個人の力で政府の決定に影響を与えられない」と多くの若者が感じており、まちに若者の意見が通っていない。 ・あらゆる分野において進んでいるグローバル化は地域社会と世界を急速に結びつけつつある。静岡市内の外国人の増加、国籍の多様化が地域社会の摩擦を生み出すケースも増えており、地球規模の視野で考え地域の視点で活動する「グローカル人材」の育成が重要になっている。グローバルな問題に対するローカルな解決が必要であり、そのためには地域を知ることが「問題意識」を深めていく原点になる。
	市民ニーズはあるか？	● 内閣府こども若者白書より　対象年齢：13～29歳 ・あなたは今、住んでいる地域が好きですか？ 好き 22.5%　どちらかというと好き 52.3% ・若者に政策決定過程への関与について 社会のことは複雑で私は関与したくない：31.2% →関与したいと思っているは一定数いる。 ・私個人の力では政府の決定に影響を与えられない　日本：61.2% スウェーデン：39.1% →この調査では政府だが、市政についても同様に感じているのでは？ ・働くことに関する現在・将来の不安 働く先での人間関係がうまくいくか　74.8% きちんと仕事ができるか　73.0% →働くことに関する現在または将来の不安は多くの項目で高くなっている。学校で社会に必要な能力が身に付けられていないため、不安を感じているのではないか ●厚生労働省若者に関する意識調査 日本の未来をよくしようとする意識 考えてはいるが具体的にどのようにすべきかわからない　26.8% 仕事や学業を通じて社会に貢献したい　28% 寄付やチャリティーを通じて社会に貢献したい　9.4% →社会をよくしたいという希望はあるが、参画の手法を知らないまたは、限られている。 ●高校生新聞社より ボランティア部の活動の内訳 募金活動：74% 地域貢献（町おこしなど）：43% →地域貢献の活動は1/2以下にとどまっている ●参議院選挙投票率 静岡県 18歳:49.31%、19歳:37.5%、20～24歳:32.56% 18～19歳の投票率　静岡県が43.56% スウェーデン（2010年）　18～29歳　79% →18は高く、19歳になると投票率が下がる。すなわち高校に在学中の生徒は投票率が高いが、卒業後の投票率は大幅に下がる。 スウェーデンでは、18～29歳の若者の投票率は高い。

目的		最終目標：高校生の意見が地域で反映されることによって地域が住みやすくなり、その地域に住み続けたいという人が増える 事業目的：地域で高校生が実社会の正解のない問題に向き合い、対応することで「自分でも地域を変えることができる」という実感を得て、シティズンシップに富んだ市民になる
	ターゲットは？	静岡市内在学在住の高校生
	ターゲットはどんな欲求を持っているか？	将来、社会で必要とされるスキルを身につける機会を与えて欲しい。。自分の地域を自分の手で住みやすい地域に変えていきたい。
手法		高校生自らの手で市内高校に「ちいくじかん」（地域の課題を発見し解決案を考える授業）を導入するためにの検討会議を行う。若者会議のメンバーが主体となり運営・事務を行う。 ＜実施までの流れ＞ 1,「ちいくのじかん」準備研修会を実施 　年6回、市内在学高校生を対象に準備研修会を実施し、まちづくりや若者の参画について学ぶ 「ちいくのじかん」検討委員会の委員を募集（市内在学の高校生）　＜4月＞ 2,検討委員の任命（静岡市） 3,検討会議の実施（全6回以上）　＜5月～3月＞ 　第1回検討会議　「ちいくのじかん」検討 　第2回検討会議　「ちいくのじかん」目標設定 　第3回検討会議　カリキュラム作成 　第4回検討会議　学校の指定 　第5回検討会議　学校運営の基本方針 4,指定校で実施（3ヵ月～半年）　＜4月＞ 5,事後検討会議　改善、カリキュラムの見直し　＜9月＞ ・検討会議について 静岡市の運営協力を得ながら、高校生自らの手によって「ちいくのじかん」検討会議を行う。教育員会に意見をもらいながら、会議と学校が主体となり実施していく。 検討会議構成役員 ・専門家（シティズンシップ教育、まちづくり、若者社会参画） 　大学教授、専門機関 ・学校 　校長、教員、高校生 ・地域 　NPO・自治会長、町内会役員、PTA、大学・専門学生 ・その他 　社会福祉協議会、静岡市校長会 ・「ちいくのじかん」について 「地域に行く」「地域で知る」「地域で育つ」をコンセプトに高校生が地域に出て若者の視点から、その地域の人と出会い、その地域の資源・課題を発見し解決案を考えるという授業。高校生が主体的に活動し、その地域の課題解決や成功体験を経験することで、高校生の主体性や地域へ参画する市民性の醸成を目的とする。 カリキュラム例 高校「総合的学習の時間」を活用し高校生自らがを行う。 話し合い、ワークショップ、地域交流等を通して体験型・問題解決型学習を行う。 Step1 「共感・表現」話し合い活動を通じて自分の考えを表現すること、コミュニケーションの楽しさを学ぶ。テーマを地域として自分の通学路や普段感じている地域の問題や資源について考える。 Step3 「課題発見」実際に地域に出て、地域の人たちと関わる中で地域の課題を発見する Step2 「問題意識」ワークショップや再び地域に出て人にあったり、場所に行き、高校生が地域の問題について考える Step4 「解決策の検討」課題に向き合い解決策を考える step5 「プロジェクトの実施」発展として課題を解決するための解決案をプロジェクトという形にして、高校生が主体となり実施する。実際に地域にでて、地域をで活動を行う。

	競合は？市の役割は？	検討会議の委員の任命、授業実施までの検討会の運営協力
	どの程度実施するか？	・検討会議は全5回行う。 ・「ちいくのじかん」は学校に合わせて行うが3ヶ月から半年掛けて定期的に行う。
	経費は？	検討会運営費用、専門家招致の経費、参加する高校生の交通費
成果指標		取り組んだ学校数および生徒数、生徒の意識調査、住民の意識調査
	どのようにして計るか？	「ちいくのじかん」の授業（活動）開始前アンケートおよび授業（活動）後のアンケートの継続的な実施および聞き取り調査を行う。
	目標は？	高校数　2校　関わる生徒数200人 意識調査（高校生） 考えてはいるが具体的に何をしたらいいか分らないという生徒の割合が10%に減る 意識調査（住民） 「高校生が参画することで地域にとってよくなった」と思う住民が3割増える

静岡市 地域センパイ制度の提案

はじめに

人との出会いは素晴らしい！！
⇒今の静岡市にそれはある…？

地域コミュニティって衰退してるよね…

他の人はどう思っているの？

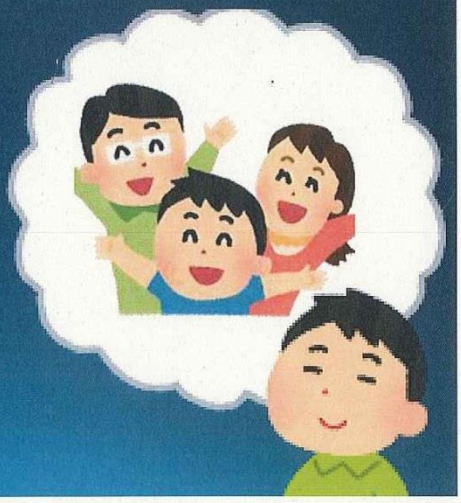
- 内閣府のデータによると若者の悩み事TOP3は
  「自分の将来」「お金のこと」「仕事のこと」
  （それぞれ79.4%, 75.9%, 74.8%）

- 静岡市内で実施したアンケートによると
  「自分より年上の人と話すことは有益である」
  という質問に「はい」と答えたのが86.7%
  （有効回答数83個，うち10～20代が50個）

わかものが
家以外で悩みを相談したいとき
同世代以外と趣味の話をしたいとき
少し年上の人の話を聞きたいとき

地域に"センパイ"がいたら
それって素敵なまちだと思いませんか？

そこで！こんなことを
考えました！

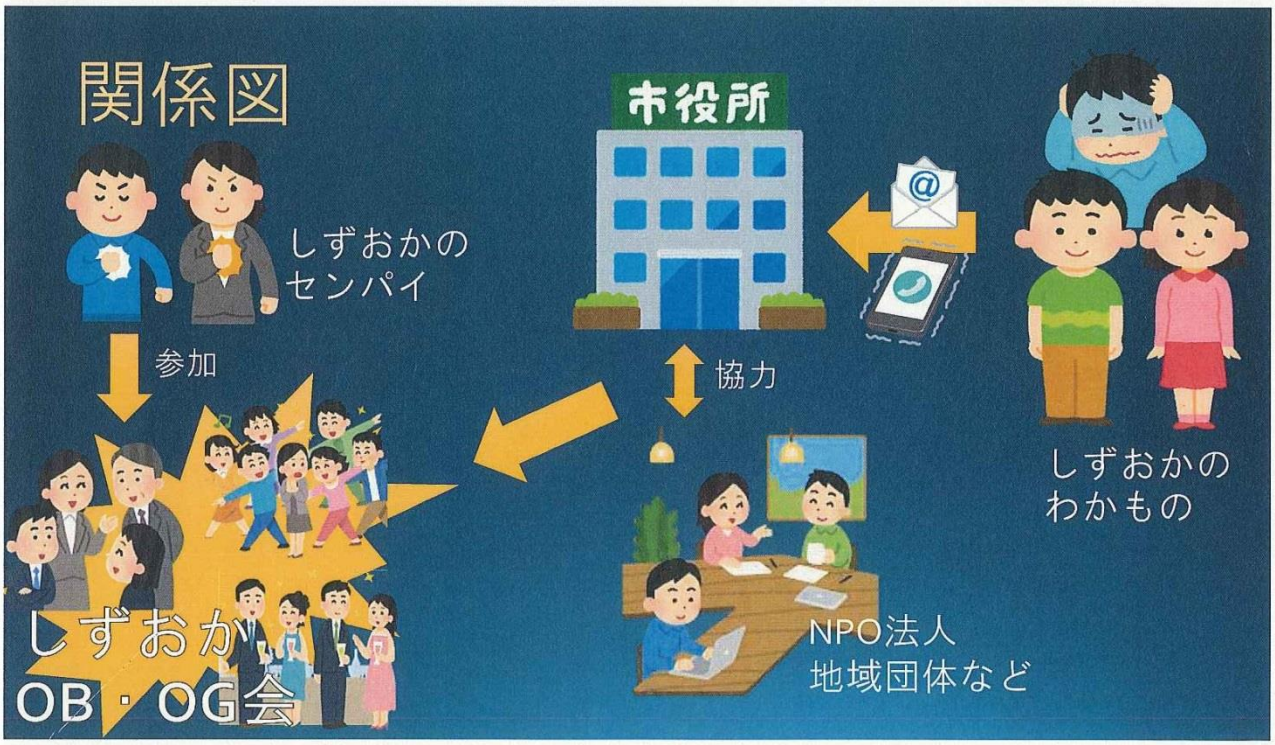


題して！

静岡市
地域センパイ制度！

企画内容

- 静岡市主催の「しずおかOB・OG会」を2か月に1度程度のペースで開催する
- 「しずおかOB・OG会」では集まった老若男女がテーマに沿って自由に会話を楽しむ
- テーマは事前にわかものからリクエストがあったものの中から選出する



（希望的な）企画詳細

- 主催は静岡市で実質運営は地域団体やNPO法人が担う
  （静岡市わかもの会議と類似した形式）

- 開催場所は葵区、駿河区、清水区で順番に回していく
  場所は各庁舎の会議室でもいいが、もっと参加しやすい場所で行えたらなおよい

参考事例

まとめ

- わかもの
  センパイと話す機会が格段に増加する
  ⇒自分の人生の幅が広がる

- センパイ
  普段は話すことの少ない世代と話して刺激を得られる
  自分よりさらにセンパイに会って話しを聞けるかもしれない

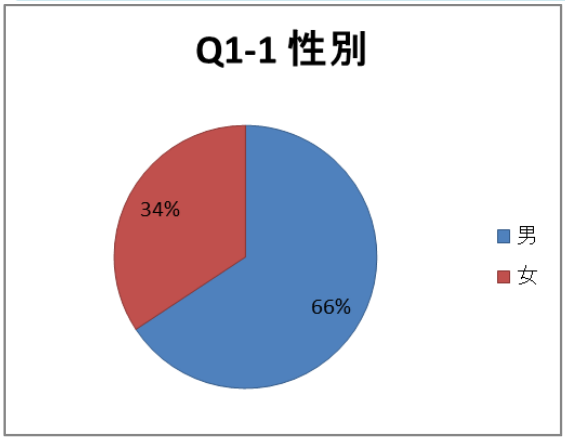
- 地域
  地域コミュニティの再形成の一助となる
  何を考えているか分からないと思いがちの若者が
  何を考えているのかが分かるきっかけになる

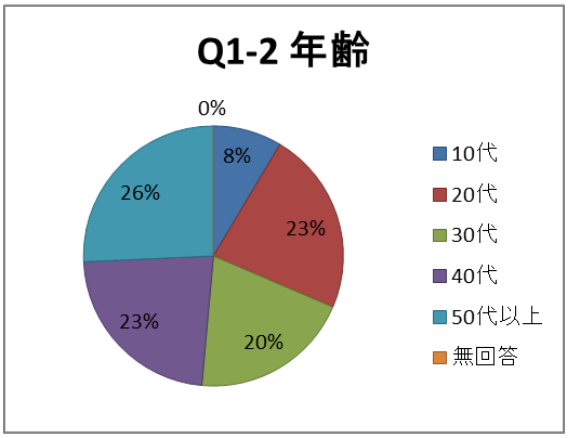
ご清聴ありがとうございました

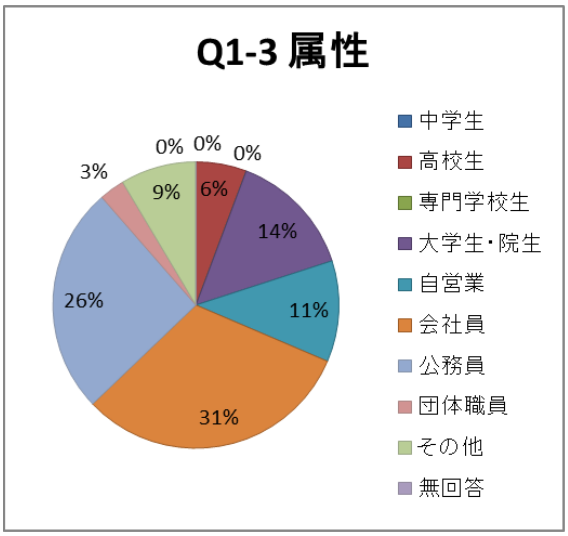
私たちの案はまだ未熟です
それでも思いは本物です
どうか静岡市でも
御一考いただきたく
思う所存でございます

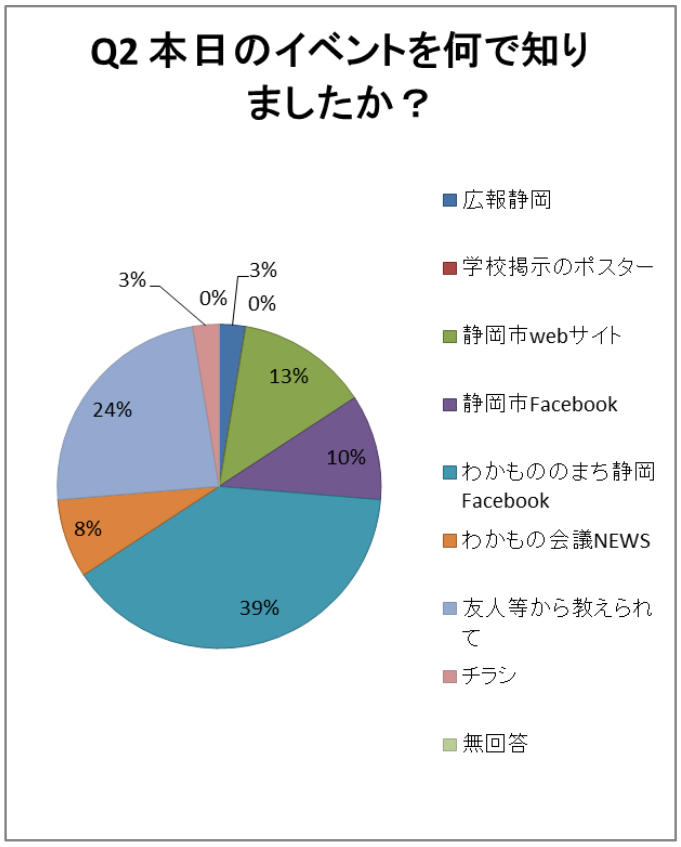
企画名称	静岡市地域センパイ制度
現状・背景	・中高生が出会い、話が出来る大人が限られている　・地域における世代間交流の減少
なぜ、必要なのか？	年上の人と話すことで新たな価値観や考えが身につき、多様な視点から自己の将来を見つめる機会ともなる。自分の悩み事を経験して来た年上の人に相談できる。同じ町に住む人は安心感が増すのではないか。 また中高生が地域との繋がりを持ち、様々なセンパイと触れることにより、地域・地域の人への愛着が生まれる。これは地域コミュニティの再生の契機にもなる。
市民ニーズはあるか？	静岡市内で実施したアンケートの結果によると86.7%の人が年上の人と話す経験は意味のあるものであると回答している。(有効回答数83,うち10～20代は50)また、自由記述欄にもそういった機会が増えることを歓迎するニュアンスの言葉が多く並んでいた。加えて、年上ならば誰でもいいというわけではないという懸念もあるが、そこの安心感の担保といった点でも市が行う意義はあると考える。
目的	若者が自分の住んでるまちに相談できるセンパイがいること
ターゲットは？	静岡に住む人生のセンパイと話したいわかもの / 近い人には言いにくい悩みがあるわかもの
ターゲットはどんな欲求を持っているか？	中高生のうち、最大の悩み事について「相談している人はいない」という高校生は41%、中学生は16%に上る。また、若者の地域活動に「参加している」「時々している」者の割合は男性20%、女性9%である。これは他の年代と比べて極端に参加が少ない。地域活動に参加しない理由として「参加の仕方がわからない」と答えた者の割合は若い世代ほど多い。（男性33.0%　女性41.1%） このことから、地域活動への参加は少ないが、それは参加の仕方が分からないからであって、参加しやすくする工夫をすれば、若者の地域活動等への参加は増える余地があると考えられる。地域活動への参加を働きかけることにより、新たな交流が生まれ、相談相手も見つかるのではないかと考える。
手法	若者が提案したテーマをもとにセンパイを交えてトークをする。
競合は？市の役割は？	若者の要望を聞き入れ、それに見合うセンパイを公募する。そのときに、基本的には誰でも参加可能だが不適切な動機で参加しようとする人を参加させないようにする役割ももつ。またOB・OG会の会場の提供や会の開催の広報をする。こういった実際の運営といった点は市が直接行うのではなく、委託団体が行うというやり方も検討するべきだと思う。
どの程度実施するか？	２か月に１度。状況によって変更する変更する余地は大いにある。
経費は？	
成果指標	アンケート
どのようにして計るか？	参加者の満足度。参加する前と後での変化を見る。
目標は？	気軽に話せるセンパイがいると感じる若者の割合が過半数を超える。

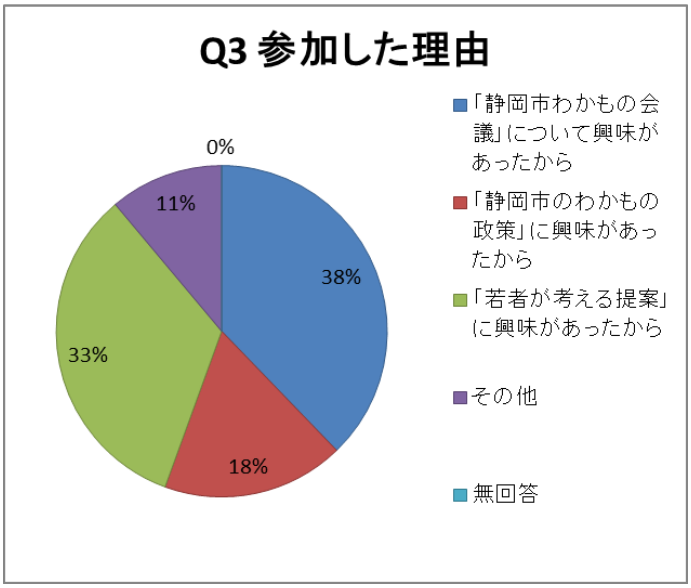
２　最終報告会　来場者アンケート











Ｑ３：その他理由

- 友人に誘ってもらったから。
- 静岡市のまちづくりについて興味があったから。
- 地域活動についてどう思っているか興味があったから
- 今、自分がかかえている問題が少しでも解決したらいいなと思い参加しました。
- 今日が最終報告会と聞いていたので

Q4 特に印象に残った部分
・国際交流に興味がありましたが、国際というエリアの広い言葉に惑わされてしまいがちですが、身近なこと、小さなことからアクションを起こそうという提案に対し、大いに共感し納得することができました。
・どの提言も若い世代に必要なことではないかと思いました。地域との関連がこれからの課題になると思います。「ちいくのじかん」は地域を知る１歩だと思いました。
・それぞれのグループの提言が情熱的で素晴らしいと思いました。その発表を聞いての市長からのエール・コメントも的確かつ現実的なもので心に響きました。「静岡市わかもの会議」がさらに大きな、色んな社会問題を包括的に取り扱えるような団体になっていってほしいです。
・各グループの発表が若者らしく、想いのあるもので印象に残りました。「すぐに行政に頼らない」「まず自分たちのできるところから始めてみたら」といったコメントに、確かにそれも大切であると思うと同時に、相互に協力し合う官と民の協働が実現できればと感じました。
・最終報告会がある、ということを知って、初めてこの会議の存在に気づき、参加したが、約半年活動してきた報告がこれかと少し期待していたよりも低かったというのが本音である。市長もいらっしゃる場であれば、服装やプレゼンテーションの仕方なども含め、より改善すべき点があると思った。同じように、若者がこのような気持ちを持ち、わかもの会議に入って活動しようとする思いを持っていたことを今日見て、自分も自らが今できること、を重点的に考えて生きたいと思った。市長と中島さんの意見がとても自分の思っていたことに似ていた。行政任せ（他人まかせ）な気がしてしまった。
・議員？である学生の友人は今日は来ることができなかったのでしょうか。そこをまきこんでいくことも一つのきっかけだと思った。〃
・わかもの会議ということでわかものの感じていること、改善してほしいことが聞けたので印象に残りました。それに対して市政からの厳しいコメントは大変納得する部分も多く、本気と説得力が重要だと実感しました。
・とてもおもしろい提言がきけました。取り組んで頂いた若者の方々には是非今後も取り組みを続けてほしいと思います。
・静岡市に関して知らなかったことが多かった（子育てしやすい町 No.1 など） 提案の内容は良いが、まだどの内容もざっくりしている感がある。（適切な表現が分からずすみません。） 市長は「安易に市に頼らないように」という風なことを言っていましたが、「ちゃんとしたイベントであるアピールとして市の支援をもらう」のはいい考えだと思います。
・ちいくの時間･･･他人事から自分事に変える、という気概がよかった。具体的にカリキュラムを考える際に課題について的を絞った方がいいのでは、とも感じた。
地域センパイ制度･･･具体的で良いと感じた。テーマを具体的に考える際、「わかもの」からのリクエストはどこからとるのか気になった。「しずおか OB,OG 会」の募集はどこから募る？規模は？

・感想を述べる際にうまく発言ができませんでしたので補足します。「ちいく」の行事に参加した人が、やがて家庭を持ったり会社の経営に携わるようになれば、自分の子供や部下・社員にも学んだことを承継できるという意味で、今後何十年にもわたった効果が期待できるとても有効であるものだと感じました。
・「地域の問題に対して他人事から自分事に変わる」このフレーズです。若者だけではなく、地域に住む全ての人の課題だと思います。学生であるみなさんの口からこの言葉がでできたことは嬉しいです。
・若者が主役で地域活性化しようという気持ちが伝わりました。“ちいく”“地域センパイ制度”必ず実現してほしい
・若者は生きがい、やりがいの目標を持てということ。治安がよく税金が安いところなら住みたいとおもうだろう。
・教育・地域とキャリアは良い考えで、今後取り組んで頂きたい内容だと思いました。国際交流は住民交流からの視点でもいろいろ考えて頂きたいです。
・静岡市地域センパイ制度は面白いと思うのですが、正直しずおか OB・OG 会が地域の自治会をリメイクしただけの組織になるのではないかと危惧します。結局、地元の自治会の老人会化している現状に参加したくないから若者は近寄らないのです。これは老人と若者の主導権争いの要素もあるので、単に OB・OG の会になってしまうならば現状の自治会という名称の老人会と変わらないでしょうね。
・「若者は現場感覚がない」との市長の提言、もっともかもしれないが、問題の若者政策は若者のあいまいな気持ちこそが現場ではないかなと思いました。
・これが「わかもの会議」の提案なのかな、とがっかりしました。市長のコメントへの反論を聞きたかったです。
・「ちいく」のなかで、ギャップを感じるという指摘はとてもプリミティブに感じるところだと思われました。これの芽を摘まないような仕組みが要りそうです。
・時間の制約の中でよくまとめていったと思います。お疲れ様でした。完成度が高くなくても、あくまで若者の立場での率直なプレゼンとして価値があったと思います。それを行政なり、大人が、政策として（あるいは常時の業務の中で）実現に向けて受け止めていくことが、地域の大人や行政、関係機関とどうコーディネートしていくかが今後のカギだと思います。
・４つがリンクしたビジョンがあるといいなと思いました。
・若者の雇用前に上の人たちの意識をかえたほうがいいと思う。自分たちのときはこうだったと若者へ強制しているようになってしまっていると思う。SNS がでてきたが直接話をすることも大切だと思う。
・勉強、部活、遊びに忙しい中、提言をまとめたことに敬意を表したいです。若者だからこそ出る発想はとても楽しく参考になりました。ただし、課題をもっと掘り下げること、なぜその対応策でないといけないのかもっと詰めていく必要を感じました。
・NPO 法人として活動されてることで、本気なのは伝わってきました。まだまだ、“政策”の“提言”としてはふわふわしていて、地に足がついていないなと感じた所が正直なところですが、blog でしっかりと発信されているのでこれからの活動も楽しみに応援しています。

・土肥さんがよかった。大学４年とは思えないコーディネーターぶりでした。おつかれさまでした。
・高木教育長がとってもほめられたこと。
・高校生のプレゼンが素晴らしく感動しました。
・テーマ別ではあったが、どれも共通する点もあるかと思う。　報告で終わりではなく、継続できると良いと思う。
・「10 年間問い続けてほしい」「10 年間本気で取り組む」「現場の声を大切にしてほしい」→まず自分たちで一歩踏みだしていくことを願っています
・現状での課題ばかりに視点をあてているところは物足りない。自分たちが今だけでなく高齢者になったら、これから数十年後の静岡はどうなっているのか、ということを想像しながら、もっと長期的な視点で問題を考え、提言してもらいたい。
・ちいくの時間の提言がよかった。これまであった地域のよさをもう一度掘りおこす取り組みを仕かけていきたいと考える。
・若者の提言（今日の発表）に対して（職員からの）否定的な解答はそれだけでやる気をなくしてしまうと思います。若者にできることからやってみようと言う前に大人達自身ができることからやってみなければ本末転倒です。時間はともかく若者の声まとめてきたことをしっかり聞きたいです。
・全体的にプレゼンテーションをしっかりとりくんでいると感じた、ただ企画案の具体性をどこまでもたせるのかがよくわからなかった。
・設定、目的がとても難しい事業だと思いました。個人的には若者がまちづくりに参加する第一歩としては有効だと思います。提言だけだとなかなか風当たりが強いですが、目的を明確に打ち出してもらえれば、納得してくれる人も多いのでは？

Q5 「若者が、住んでみたい、住み続けたいと思うまち」とはどんなまちだと思うか
・市長がアドバイスして下さった悔いのない人生のつくり方として言っていた、「人との出会い」をもっと増やした「まち」なら、素敵だと思います。人と人がつながるということに対し消極的な現代社会をもう一度生き返らせる地域であればこの先も住んでみたい、住み続けたいなと思うと思います。
・若い世代に対しても何か制度があるまちになってほしいです。
・人それぞれだと思うので、私個人の意見を言いますと、どんな年代の方でも気軽に交流できる施設があると良いと思います。その市民の方達自身が企画やイベントを立て、実行し、静岡市から応援してもらえるような場があるといいと思います。
・若者の声・想いが届くまち。たくさんの人、多様な人に出会い、色んなことに挑戦できるまち。
・そのまちに暮らして、過ごしていて楽しい、ということが一番根底に必要なものであると思う。東京にあるようなオシャレなカフェなどがあるだけでも、まちに行って友達と話したり遊んだりする機会になると思う。人のあたたかさ、子育てのしやすさなども重要だと思う。

東京の大学に通っているが、静岡にいる理由は、人のあたたかさとコンパクトに楽しく過ごせる場所があることである。
・“ひと”と繋がっていたいと思えるまちです。このひとがいるから離れられない、このひとのためにまちに残りたいと思えるからです。
・孤独感のない地域。自分の周辺
・田舎と市街地が適度にある。 身内に言い難い悩みを持ったとき聞いてくれる場所、人がある。
・地域とのコミュニケーションを気軽にできる場。外部から入ってきてもすぐにとけこめる場
・衣食住がまとまったコンパクトシティ（買い物の意味含む）
・立場や年齢の違う高校生、大学生等同士で意見を言い合い、どういう地域を目指すかというプロセスが大切だと思います。
・ほぼみなさんのプレゼンで出た内容だと思います。ですが一つ、「適度な刺激」のある街、が抜けているのではないでしょうか？みんさんにとっての刺激とは何か？機会があったら聞いてみたいと思います。
“若者がやる気を出せる街”またその気持ちを見守ってあげる環境が整っているまち
・治安がよく、仕事があり、通勤が便利なまち
・若い方たちの意見が反映されるようなまちだと思います
・わかものの提案が具体化する応答システムがあること。わかものが「異議申し立て」する社会空間、アクションがある街。
・将来に希望の持てるまち。
・自由なまち　大人が元気なまち　対話できるまち　風通しのいいまち　応援してくれる雰囲
・将来設計ができる
・若者の意見が反映される場があり、政策にいかされるまち。
・相手が喜ぶことを第一に考えて行動できるまち　お互いの理解が深まるまち。立場、年齢の違いを“楽しめる”まち　その上で、新しい価値観を積極的に取り入れて、変化に対応していけるまち
・自己実現ができること　多様性が認められること　都心部がおもしろいこと
・若者が住みやすい街というのは多くの人が魅力を感じる生き生きとした街ということになるとおもいます　若者がずっと住んでいたいという街づくりをみなさんと共に創っていけたらいいなと思いました
・成長することができる仕事に、職場に身を置けること　自分を求めてくれる人がいること若者の意見にも耳を傾けてくれる所がある　+αとして楽しめるところがある
・若者だけでなく高齢者にとっても住みやすいまち（若者もいずれは高齢者になるのだから）
・①働く場のある地域、町、町内でありたい。経済基盤が第一であろう。　②住んでみて人と人とのふれあいであたたかく感じられるまち

・「充実した人生は出会いの数に比例する」　出会いの場　外に出たくなるようなことがあるまち 出やすい場　若者がもっと市のことを知る必要があるのでは･･･ いいまちだと思います

・この発表・会議体にオブザーバーとして中高生をもっと参加させるような PR を事務局側はすべき。その参加者が増えることが「わかものからの」～題を満たす要件の一つだと思う。

静岡市わかもの会議　実施報告書

平成 29 年 3 月 31 日

＜発行＞

静岡市子ども未来局青少年育成課

静岡市清水区旭町 6 番 8 号

電話 054-354-2614